秋田大学
概要

令和2年度

2020

AKITA UNIVERSITY

秋田大学 概要

令和2年度

目次 CONTENTS

01 学長あいさつ
03 基本理念、第3期中期目標・中期計画

教育・研究

06 卓越した教育と研究
07 地方創生・産学連携
09 国際交流

学部・大学院

12 国際資源学部
13 教育文化学部
14 医学部
15 理工学部
16 [大学院]国際資源学研究科／教育学研究科
医学系研究科／理工学研究科

大学施設

18 附属図書館
19 医学部附属病院
21 国際資源学研究科附属鉱業博物館
22 附属学校園及び教育研究施設等
23 学内共同教育研究施設
24 センター／技術組織
25 福利厚生施設等／体育施設
26 東京サテライト／
横手分校・北秋田分校・男鹿なまはげ分校
27 インフォメーションセンター

28 主な課外行事

資料編

31 沿革
34 歴代学長
35 運営組織
36 教育研究組織
37 事務組織
38 役職員
39 学生の定員・現員
40 入学志願者・入学状況／出身高校所在地別在学状況
41 卒業者・修了者数／学位授与数
42 卒業者等就職状況／平成30年度学生表彰(学業奨励金)受賞者
43 令和元年度学生表彰等受賞者
46 外国人留学生数／外国人研究員等
47 国際交流協定校
48 公開講座(令和元年度)
49 国内機関との連携・協力協定
50 役員数／教職員数
51 令和2年度予算／外部資金受入状況／
令和元年度科学研究費助成事業採択状況
52 土地・建物
53 各連絡先・所在地一覧
54 手形地区施設配置図
55 本道地区施設配置図／保戸野地区施設配置図
56 アクセス

学長あいさつ

Message from the President

今年は、新型コロナウイルスのパンデミック化により、日本のみならず全世界が未曽有の被害に見舞われています。たくさんの人命被害に加え、不要不急の外出自粛に起因する経済的大打撃による多くの被害が出ている現状があります。秋田大学に目を向ければ、卒業式や入学式の中止、大学への休業要請、On lineによる授業の再開等など、これまで経験したことのない事態への対応に追われているのが現状です。不要不急の外出自粛要請に対しては、一部の心無い人々によるルール違反も指摘されておりましたが、わが秋田大学の学生諸君は、ほとんどの方が、このルールを理解し、一か月近くにわたり順守してくれたことを誇らしく感じる次第です。一方で、この新型コロナウイルスの問題が収束した暁には、深刻な不況、産業構造の変化、企業の連鎖倒産などがすでに指摘され、我々を取り巻く環境は新しい生活様式という表現で、コロナ問題前に比し、著しく変化することが容易に想像されます。中でも、喫緊の課題になりそうな就職問題は学生さんたちを直撃することが想像されます。我々、秋田大学教職員は、ポストコロナに到来する社会を見据えるためのアカデミアとしての活動を既に始めており、様々な問題に学生さんたちが自信をもって立ち向かえるように指導していくつもりです。

秋田大学はこれまで（1）世界・地域を見据えたリーダーを育む（2）世界・地域を視野に未来を創造する（3）地域と共生し豊かな社会を創る（4）地域に根ざし世界を目指す、というビジョンに沿って歩んでまいりましたが、その基礎となるものは世界と地域に貢献する最先端の研究、およびその目的にアプローチする研究が可能な人材の育成であります。このようなビジョンの実現に向け、秋田大学は、平成26年度に大幅な組織改革を行い、国際資源学部、教育文化学部、医学部、理工学部の4学部体制を敷きました。さらに、平成28年度からは大学院を国際資源学研究科、教育学研究科、医学系研究科、理工学研究科の4研究科体制とし、総合的な教育研究体制を整えました。これにより、社会から求められている大学の使命である、最先端の教育研究を強く意識した体制の地盤がより強固なものになりました。このような教育研究体制による最先端の教育研究を進めるとともに、ビッグデータの活用やIoTの普及、そして人工知能の発達によるSociety 5.0（超スマート社会）への対応が今の若者に要求されていることから、こういった新しい社会へ十分に順応できる学生を輩出することが喫緊の課題と考え、昨年の大学創立70周年を契機に、各学部においてこの先10年の未来を見据えた学部改革を開始いたしました。さらに、不確実な未来に向け、自信を持って羽ばたいていける学生の教育、今、これが最も求められているものと認識していることから、「学生第一」をスローガンに掲げ、全ての教職員が学生にきめ細やかな教育環境を提供し、知的好奇心を育んでいけるよう努力しているところであります。このような、最先端の教育研究を行っている矢先の新型コロナウイルスのパンデミック、この終息の暁には、どのような世界、社会が待っているのか、現時点では皆目見当がつきません。このあと、秋田大学のこれまでの伝統に起因した各学部の特色等について述べますが、これからは、従来どおりの活動が維持できるのか、大きな社会変革にこれまでの活動が適しているのかはわかりませんが、このような危機に際し、我々は、新型コロナウイルス問題終息後の世界、社会の将来をいち早く展望し、これまでの活動を新しい世界・社会に順応できるように舵を取っていく所存であります。

さて、秋田大学は、この地（秋田）を軸に、世界を視野に入れた４つの学部を構えております。そこには、私たちが育んできた「歴史」と「誇り」があります。

教育文化学部。ここには、小中学生の学力日本一という秋田の、教育の支柱となる教員を養成してきたという実績があります。学校教育課程においては、きめ細やかな教育プログラムに加え、伝統に育まれた教員養成を展開しています。教員は次世代を担う皆さんを良き「後継者」として育てて世に送り出し、時代を繋いでおります。地域文化学科では、何事にも対応できるための「教養」を身に付け、柔軟な思考を育むことを通じて、不確実性ともい

える時代に臨む皆さんが、グローバルな見地からローカルな課題を解決できる能力を磨くことができるよう支援しております。

私たちが暮らす秋田は、国内では有数の資源を誇る地でありました。そしてそのフィールドは今、世界へとつながっております。国際資源学部という学部名に込められた思いは、ここにあります。鉱山専門学校に始まり、鉱山学部、工学資源学部で発展させてきた、世界に誇れる研究成果と人材の育成。世界に例を見ない資源学の総合教育研究体制を敷いています。ここでは3年生になると、全員が4、5人のグループに分かれ、海外資源フィールドワークに参加します。他大学に進学した高校の同級生が、生涯行くことはないであろう地にも赴きます。資源学の現場。日本の最前線を世界で知る機会を通じて、皆さんは学問が生きていることを実感できるはずです。

理工学部は、資源系の学部であった工学資源学部から理学系の要素を取り入れた学部として発足しました。誇るべき研究成果が続々と秋田大学の研究室から発信されております。例えば、メタルナノコイルからの航空機複合材成形。この研究は複合材の軽量化・低コスト化を目指すものです。次世代航空機の機体の材質への応用が期待され、世界が注視しております。さらに、IoTやAI，ロボットなどの第4次産業革命の中心となる技術を視野に入れた理工学教育の改革とその分野をリードできる研究体制を構築しているところであります。

医学部においては、世界に発信できる教育研究の成果と地域医療への貢献が挙げられます。医師国家試験の合格率は例年、全国の医学部でも上位にランクされております。きめ細やかな教育の証左といえましょう。保健学科も、人を支える挑戦を続けています。看護師、理学療法士、作業療法士の国家試験は、高レベルの合格率を維持しています。

また、地域に貢献する教育研究活動にも力を注いでいます。秋田県の地域活性化へのさらなる貢献を目指し、平成28年度に設置した地方創生センターは、地域協働・防災と、地域産業研究の2部門から成ります。地域協働・防災部門では県内3か所に設置した「分校」を拠点に、地域の人たち、学生、教職員が一体となり、例えば米作り、オリジナルのいぶりがっこ作りなどを通じて、秋田の良さを再認識することを目指しております。また、将来の夢の実現の一歩とするための「教育ミニミニ実習」と称した、教員志望の啓発活動等、故郷の誇りを広げていく試みを続けております。地域産業研究部門では、秋田県の重要政策にリンクした研究事業を展開。県内産業の育成により、地域課題の解決にも大きく貢献できることと考えております。

さらに、医理工連携をより効果的かつ力強く推進するため、東京工業大学、秋田県医師会の3つの組織間で連携し、医療・介護機器や医薬品の開発等による産業の創生や振興に向けた取り組みを進めているところです。また、秋田県は少子高齢化の最先端県であります。このような現象により引き起こされる合併症の予防・治療は解決すべき喫緊の課題であり、秋田大学の貢献が大きく期待されているところであります。高齢者医療に特化した研究拠点として、平成29年度に秋田県からの補助を受け、「高齢者医療先端研究センター」を設置し、高齢者医療の先端的な研究のほか、地域社会学の知見を踏まえた学際的な研究を推進しております。このように秋田大学は、オール秋田の中心としての役割を果たすべく活動しております。

シームレスで行われる学部教育から大学院教育。そして明確なミッションを掲げた各センター。これらが「優秀な卒業生を社会へ、そして優れた研究を社会に還元する」という秋田大学の使命に応える礎といえます。日経HR「価値ある大学2018年版　就職力ランキング」において、企業が選ぶ「採用を増やしたい大学ランキング」で堂々の全国第一位に選ばれました。卒業生の「行動力」、「対人力」が高く評価されたものです。これらは、卒業生自身の努力の賜であることは言うまでもありませんが、それをバックアップする土壌が秋田大学にあることの証明であると、誇りに思っている次第です。

秋田大学を「母校」とする我々は皆、優れた学生諸君を社会に輩出すること、そしてこの地（秋田）が輝きを増すことを期待しております。

最後に、これから到来する深刻で劇的な社会の変化に即応できる、より新しい、より素早いアカデミアとしての活動を通して、ポストコロナの社会においても社会のリーダーとしての立場を堅持していく所存です。

国立大学法人秋田大学長　**山本　文雄**

基本理念

1. 国際的な水準の教育･研究を遂行します。
2. 地域の振興と地球規模の課題の解決に寄与します。
3. 国の内外で活躍する有為な人材を育成します。

第3期中期目標・中期計画

Mid-term Objectives and Plan

（平成28年4月1日～令和4年3月31日）

国立大学法人秋田大学の中期目標

（前文）大学の基本的な目標

秋田大学は、知の創生を通じて地域と共に発展し、地域と共に歩むという存立の理念を掲げ、豊かな地域資源を有する北東北の基幹的な大学として、その使命である教育と研究を推進する。

この見地から本学は、独創的な成果を世界に発信しつつ、国内外の意欲的な若者を受け入れ、優れた人材を育成するため、地域や世界の諸機関との連携による柔軟な教育研究体制の構築を推進する。

全地球的な視野を持ちつつ、諸課題に正面から向き合い、地に足をつけて行動できる規範意識を内在させた社会人を育成するためには、充実した教養と専門、さらには分野融合的な教育が不可欠である。そこで、本学の国際資源、教育文化、医、理工の四学部は、固有のミッションに基づく専門領域と諸学諸組織との融合を通じて、地域社会の持続的な発展を担う専門的職業人と国際社会で活躍する高度専門職業人及び学術研究者を育成する。

こうした基本認識に立って、本学は学生と教職員との全学的な知の交わりが躍動する、学修者中心の大学たることを目指す。

以上のような理念に基づき、活動の基本的な目標を以下に定める。

1. 教育においては、質の国際通用性を高め、地域と世界の諸課題の解決に取り組む人材を育成する。

2. 研究においては、地域の特性を活かした研究とグローバルな課題に対応する研究に取り組むことにより、イノベーションの創出を推進し、その成果を継続的に地域と世界に発信する。
3. 社会連携においては、教育研究成果を地域社会に還元し、地域と協働した地域振興策の取組を推進するとともに、地域医療の中核的役割を担う。
4. 国際化においては、資源産出国を中心とした諸外国の留学生・研究者との学術交流を推進するとともに、学生や教職員の海外留学・派遣を促進する。
5. 大学経営においては、学長主導の下、学生及び教職員一人ひとりの活力を相乗的に高めた組織文化を浸透させ、透明性を確保した健全で効率的な大学経営を目指す。

中期目標

Ⅰ 大学の教育研究等の質の向上
Ⅱ 業務運営の改善及び効率化
Ⅲ 財務内容の改善
Ⅳ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供
Ⅴ その他業務運営
に関する目標を達成するためにとるべき措置として、中期計画を設定しています。

本学の中期目標・中期計画の全文は
〈ホームページ〉https://www.akita-u.ac.jp/honbu/info/in_target.html からご覧いただけます。

教育研究

卓越した教育と研究
○航空機用電動化システムの研究開発と応用展開
○未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

地方創生・産学連携

国際交流

卓越した教育と研究

航空機用電動化システムの研究開発と応用展開

（実施期間：令和2年度～令和5年度）

現在製造されている航空機は電気、空圧、油圧によって制御されていますが、それぞれの仕組みは複雑で整備負担が大きく、電気に統一する動きが進んでいます。秋田大学ではこうした課題に注目し、秋田大学・秋田県立大学の研究者有志によるアキタ・リサーチ・イニシアチブの研究開発活動を推進するほか、両大学と県内企業等と共同し、航空機をはじめ、自動車などにも応用できる「小型軽量電動化システムの研究開発による産業創生*」事業を推進し、地域の人材育成と産業振興に貢献します。

*令和元年度内閣府「地方大学・地域産業創生交付金」の交付対象事業に採択

機体制御システム（イメージ図）

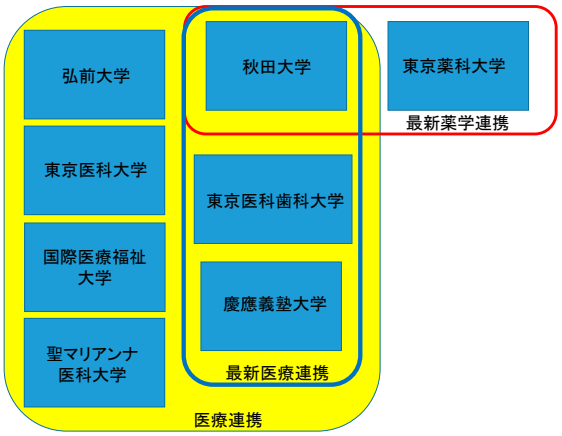
未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

（実施期間:平成29年度～令和3年度）

平成29年度に文部科学省が新たに募集した「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」に対して、秋田大学は前回の養成プランに引き続き、東京医科歯科大学を主幹校とする養成プランに参加することになりました。本プランでは、この他に慶應義塾大学、国際医療福祉大学、聖マリアンナ医科大学、東京医科大学、東京薬科大学、弘前大学も参加しており、合計８大学が連携することになります。このプランを契機として全国でも最も高齢化率の進行が早く、がん死亡率でもワーストの秋田県のがん医療環境、特に人材養成の観点から一層の改善を目指します。これまでの「がんプロ」事業で標準化、均てん化という目標は達成しました。

しかしながら、がん治療は止まることなく進歩しており、個別化という要素を取り込んだ「がんゲノム」、「プレシジョン・メディスン」の実践が求められております。本プランを県内のがん拠点病院、さらに医療関係の職能団体との連携事業として位置づけ、修了者が県内で主導的に活躍できるように働きかけていきます。

具体的には県内のがん拠点病院に包括的ながん治療を実践できる「腫瘍科」を開設します。また、人口の少ない秋田県だけでは希少がんを経験しづらいが、連携８大学において、レアキャンサーのレジストリーやボードミーティングを設けて集積された治療成績をレファレンスとして使用できるようにするなど枠組みを構築します。



地方創生・産学連携

秋田大学は、平成16年度の国立大学法人化を契機に、教育・研究・社会貢献を大学運営の重点事項として掲げ、公共的な知の拠点として大学開放事業を推進しています。

本学の社会貢献活動の根底には、学生のみならず生涯学習も教育の一環であり、社会の人々にも積極的に教育資源を提供していこうという思いが込められています。そのコンセプトを基に、様々な活動を展開しています。また、高校生やその保護者、あるいは小・中学生を対象とした企画も実施しています。

平成28年4月には地方創生に取り組む地（知）の拠点大学として、新たに「地方創生センター」を設置しました。当センターは地域との協働による地域振興策の取組及び地域防災等の研究・支援並びに地域産業の成長に資する研究を推進し、地域を担う人材育成の推進と地域の産業振興、活性化に貢献します。

地域協働・社会貢献

■公開講座

生涯学習の一環として、市民・県民の皆様どなたにでも本学の良質な教育資源を提供するために、毎年多種多様なテーマで公開講座を開講しています。

■子ども見学デー

毎年夏休みに、小学生とその保護者の方を対象に「子ども見学デー」を実施しています。大学内の見学や研究室での実験、天体望遠鏡での観察など、様々な体験を通じて、大学に対する関心を高めてもらうことが目的です。

■スポーツ少年向け障害予防教室の開催

超音波によるメディカル・チェックなどを通して故障の原因となり得る要素について知ってもらい、自身の体のケアについて意識するきっかけとすることを目的に開催しています。

県内のスポーツ少年団員・中学生及びその保護者・指導者を対象に、超音波検査による、骨や筋肉の状態、腕や足・体幹の柔軟性、フォームなどをチェックし、その状態に適したストレッチやフォーム指導を実施しています。

■メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト

社会貢献事業の全学的な取り組みとして、本学の持つ学術的知見を分かりやすく県民へ提供するため、学部間連携により各学部から講師を招き、医学系研究科長がサイエンスカフェ・マスターとなって、幅広い視点から医学・健康に関する話題を提供しています。

■地域課題の解決を目指した「学生自主プロジェクト活動」支援事業

学生が、他者と協力しながら地域課題の解決を目指してグループで活動することを通して、主体的に地域に目を向け、地域の特性（特徴）を再認識するための活動を支援するものです。地域に関わる学生の増加と、地域志向型人材の育成を通した課題解決型人材の育成に寄与することを目的としています。

地域防災

1．秋田県の特性を考慮した地域防災のあり方に関する調査・研究

①秋田県内の地震防災について基礎的研究を行います。
②秋田県沿岸で過去に発生した津波の影響範囲や履歴を調査し、津波被害の軽減について研究します。
③秋田県内に将来甚大な被害をもたらす可能性がある地震・津波について調査・研究します。

2. 防災について地域で活動できる人材の育成

地震災害が発生した場合に地域住民自らが減災活動を行えるように、自治体・町内会、教育機関等で防災教育を実施します。

3. 県及び市町村への防災施策に関する指導助言

秋田県の地震被害の想定並びに地震防災対策を推進するために、県内自治体が考える防災・減災対策について、地域の特性を考慮しながら指導・助言を行います。

地域産業研究

■資源開発・環境リサイクル研究開発事業

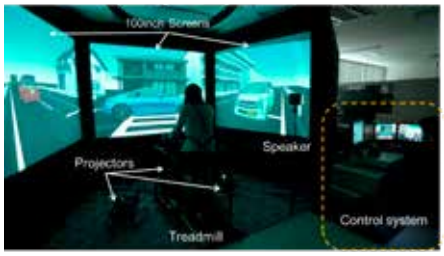
天然の鉱物資源や石油、天然ガス等のエネルギー資源に関する開発と生産・利用にはじまり、資源精製や素材生産、レアメタル等のリサイクルから環境修復技術に至る高度で独創的な研究を推進し、国際的な視野に立った先進的教育研究拠点を構築します。

■新素材・機能性材料開発研究事業

新素材・機能性材料開発事業では秋田大学における基礎研究成果を基盤とした新素材や先端材料の開発に関連した研究を推進し、地域の高等研究機関としての機能を果たすことで、これら研究をとおして秋田県内企業、大学、公設試の連携による新産業や雇用の創出を目指します。

■自動車・航空機産業研究開発事業

航空機，自動車などの輸送機産業を推進する地域への貢献のために，次世代の航空機，自動車のための複合材料成形プロセス・CAE構造設計技術，高効率動力システム及び運転・歩行者支援と　インフラに関する研究開発を推進します。



■新エネルギー開発研究事業

秋田県に豊富に賦存する再生可能エネルギー資源、特に風力エネルギーを活用した県内の産業振興や、産業を支えるための人材育成に協力しています。

■医理工連携産業研究開発事業

秋田県内を中心とした企業と共に、医療・福祉関連分野における少子高齢化に伴う新しい機器の開発と事業化を推進します。開発機器は医療機器だけではなく健康増進、長寿に関する一般ユーザーを対象としたものに広げ、産学官連携による医療機器産業の育成に努めます。

複合材の新たな製造技術及び品質評価技術に関する研究開発

（プロジェクトリーダー：村岡 幹夫　理工学研究科教授）

航空機機体主要構造物をターゲットとした複合材の革新的な低コスト製造技術・品質評価技術を開発。秋田県での航空機部品等の事業化を目的に県内企業とともに平成29年4月「秋田複合材新成形法技術研究組合」を設立し、製造拠点の創生を目指しています。

平成30年度からは、国内自動車メーカーと連携した熱可塑性樹脂と炭素繊維の基材を活用した自動車の複雑形状部品の試作評価に加え、公共インフラ補修を視野に入れた土木・建築分野への応用研究等についても新たに取り組んでおります。

国際交流

世界に広がる学術ネットワークと海外拠点

大学間協定は30カ国・地域62大学、部局間協定は18か国・地域29学部等となりました。今後も協定校との学術交流及び学生交流を推進し、積極的な国際交流を進めていきます。

また、第3期中期目標・中期計画において、「秋田鉱山専門学校・秋田大学鉱山学部及び工学資源学部の資源学分野の蓄積を活かした国際資源学部を中心に、国内外の資源に関わる企業・政府機関等の多様な分野で活躍できる人材の養成を行い、我が国の資源・エネルギー戦略に寄与することを目指し、世界的な資源学教育研究拠点としての充実と、世界水準の教育基盤を確立させる。」ことを目標に、「アジア・環太平洋地域を中心とするグローバル教育・研究とハブ機能を充実させるとともに、アフリカ・中東地域における資源学拠点形成を推進するため、海外共同研究拠点等を令和3年度末までに累計５か所以上設置する」ことを計画しています。

この計画に基づき、2020年5月現在では５ヵ国７か所（モンゴル１か所、タイ２か所、インドネシア２か所、ボツワナ１か所、アラブ首長国連邦１か所）に海外拠点を設置しています。

2012年、初の海外事務所としてモンゴル科学技術大学内に「秋田大学モンゴル事務所」を開設しました。2016年に新モンゴル学園内に移設し、本学研究者の現地における調査研究や新モンゴル学園から本学へ進学を希望する留学生の教育支援、広報、研究者との交流拠点として利用しています。

2013年には、バンコク（タイ王国）のチュラロンコン大学内に「秋田大学・チュラロンコン大学共同研究室」を設置し、翌2014年には、北都銀行バンコク連絡事務所内に「秋田大学バンコク事務所」を開設しました。共同研究室では、両大学の研究者による研究や現地調査の拠点として活用し、バンコク事務所では、東南アジア地域における事務的拠点として、現地関係機関との連絡調整及び留学生獲得のための広報活動を行っています。

2015年には、インドネシアのトリサクティ大学内に「国際資源学部・トリサクティ大学共同研究室」を設置しました。通常は権益の関係から入手が難しい石油資源データを国営石油会社プルタミナから試料提供を受け共同研究室において分析を行うなど、国際資源学部によるアジアの地下資源をテーマにした共同研究、地域の探査・開発を行っています。

2017年には、ボツワナ国際科学技術大学内に「秋田大学ボツワナ事務所」を開設し、南部アフリカ地域での調査研究・教育活動を行うほか、国際資源学部３年次必修科目「海外資源フィールドワーク」の南部アフリカ地域の拠点として活用しています。

2019年４月には、UAEのUAE大学内に「秋田大学・UAE大学共同研究室」とインドネシアのパジャジャラン大学内に「秋田大学・パジャジャラン大学共同研究室」を設置しました。「秋田大学・UAE大学共同研究室」では、資源学分野を中心とした教育研究活動や地中熱利用技術を中心とした共同研究を実施するなど、中東地域における拠点として活用します。また、「秋田大学・パジャジャラン大学共同研究室」でも資源学分野を中心とした共同研究や本学の研究者・学生による現地フィールド調査の拠点として活用するほか、本学初のダブルディグリープログラム（国際資源学研究科とパジャジャラン大学）の運営拠点としても活用します。

〈秋田大学海外拠点一覧〉　令和2年5月1日現在

国	拠点名	設置日
モンゴル	秋田大学モンゴル事務所	2016年9月29日
タイ	秋田大学・チュラロンコン大学共同研究室	2013年4月25日
	秋田大学バンコク事務所	2014年10月1日
インドネシア	国際資源学部・トリサクティ大学共同研究室	2015年4月28日
	秋田大学・パジャジャラン大学共同研究室	2019年4月1日
ボツワナ	秋田大学ボツワナ事務所	2017年6月28日
アラブ首長国連邦	秋田大学・UAE大学共同研究室	2019年4月1日

アラブ首長国連邦大学での調印の様子

資源開発の研究拠点から留学生広報まで

国際社会の持続可能な資源開発と資源確保に資する教育研究拠点創設を目的として2009年に設置された国際資

源学教育研究センター(ICREMER)では、資源保有国に対する出張講義・技術指導等の教育支援のほか、資源保有国協定校の大学院生を対象に行う短期研修「ショートステイプログラム」の開催、資源学に関する国際シンポジウムの開催、海外協定校との共同研究の推進、共同研究者の本学への短期招へい等、様々な活動を行っています。

特に、ショートステイプログラムについては、プログラムを終えて帰国した学生が正規留学生や交換留学生として再び本学に戻ってくるケースが増えてきており、本学の海外広報としての役割も期待されています。

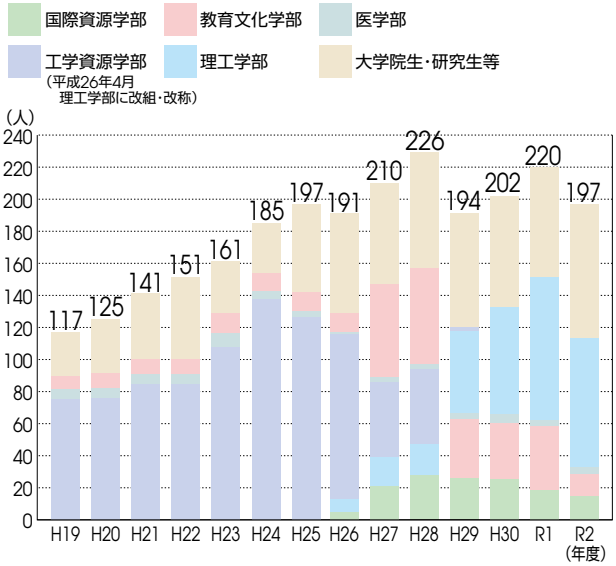
秋田大学は世界に開かれた大学として国際交流の拡大を図っています。そのために、学生及び教職員の海外留学・派遣の促進と外国人留学生の受け入れの増加、受け入れ環境の整備等に努めています。2008年には国際交流センターを設置し、戦略的な国際交流を推進してきたところですが、2019年に教養基礎教育、専門教育及び国際交流の改善・充実を図ることを目的として、国際交流センターと教育推進総合センターを統合し、「高等教育グローバルセンター」を設置しました。

外国人留学生に対する教育・生活支援の充実

留学生数の増加に伴い、教育支援体制の整備も積極的に行っています。秋田の文化に対する理解を深めるため、農家民泊、もちつき、スキーツアーなど、地域に根ざしたイベントを企画し実施しています。また、「チューター制度」を採用することにより、日本人学生が留学生の日本語学習や生活のサポートを行っています。また、平成22年4月には「多文化交流ラウンジ」が設置され、全学生、教職員が多言語を自律的に学べる場となっています。

スキー合宿

〈留学生数の推移〉



国際的視野を持った人材の育成

若手教育系職員を海外の大学等に派遣し、国際的な視野を持った人材の育成を目指すため、「秋田大学研究者海外派遣事業」を実施しています。制度化した平成20年度から今までに、毎年2～3名程度、計32名の研究者がこの制度を利用し、海外の大学で研究を行いました。

また、学生に対しては、協定校などの海外の大学へ留学する際の経済的支援のため、「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」や「秋田大学学生海外短期研修支援事業」を実施しています。これは往路に要する国際線の航空運賃の一部(アジア圏上限4万円、それ以外上限10万円)を支給するもので、令和元年度は「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」により7名、「秋田大学学生海外短期研修支援事業」により8名に対して支援を行いました。

海外留学説明会

学部・大学院

［学　部］

国際資源学部
Faculty of International Resource Sciences

教育文化学部
Faculty of Education and Human Studies

医　学　部
Faculty of Medicine

理工学部
Faculty of Engineering Science

［大学院］

国際資源学研究科
Graduate School of International Resource Sciences

教育学研究科
Graduate School of Education

医学系研究科
Graduate School of Medicine

理工学研究科
Graduate School of Engineering Science

国際資源学部

国際資源学部は、地球規模の資源問題解決に向けて、資源生成メカニズムの解明から資源の探査、開発・生産までを対象とした理工系分野と、資源国の政策・文化や資源経済などを対象とした人文社会系分野からなり、網羅的に資源を学ぶことができる我が国唯一の「資源学」を対象とした学部です。世界の第一線で活躍する教授陣を結集し、世界をフィールドとして資源学の最先端を学びます。国内外の大学や企業、研究機関との強力な連携体制のもと、国際舞台で活躍できる資源人材を養成します。

当学部で実施する英語による専門科目の講義や学生全員が参加する約4週間の海外実習（海外資源フィールドワーク）などの実践的な教育によって、学生の皆さんは高い国際性と専門性を身につけることができます。2014年の学部創設から現在まで多くの卒業生が国際的な資源ビジネスに取り組む企業に就職しています。資源のスペシャリストになり、世界の持続可能な開発への貢献を目指す皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

■学部の構成（1学科）

【国際資源学科】

地球規模の資源問題解決に向けて、国際的な視野をもち、実践的能力を育みます。

●資源政策コース（文系）

資源を取り巻く国際情勢や政策を理解し、関連する政治学や経済学、資源国とのビジネスや国際協力、その背景となる資源国の文化について学びます。

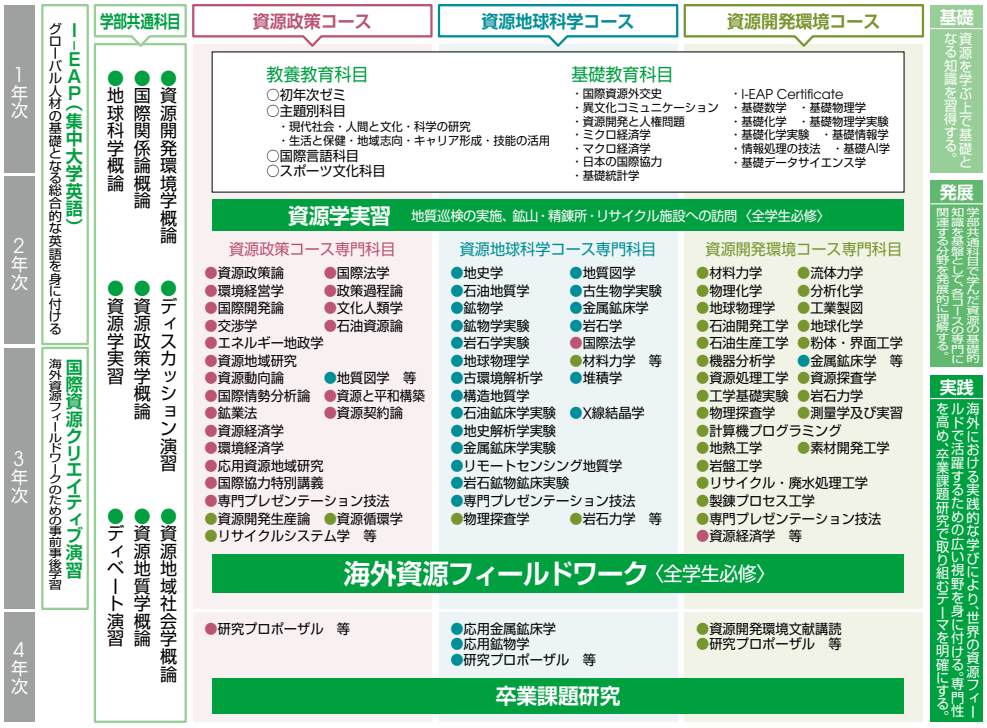
●資源地球科学コース（理系）

世界に分布する地下深部の資源の評価・探査に貢献するため、資源となる元素・鉱物の濃集を引き起こす地質現象とそのメカニズム、資源探査の手法を学びます。

●資源開発環境コース（理系）

限りある地球資源を持続的かつ有効に活用するため、地球環境に調和した資源開発・生産技術、リサイクル・製錬技術、環境保全などに関わる専門分野を学びます。

カリキュラムの特色



専門科目は全て英語で授業

世界で活躍するために、英語力は必須です。国際資源学部では、1・2年次に「I-EAP」と呼ぶ特別カリキュラムで集中的に英語を学びます。また、ディスカッション演習、ディベート演習によって、実際に英語で議論ができるようになることを目標に学習を進めていきます。こうした実践的な英語学習を経て、専門科目の講義は全て英語で行います。語学力の面でも、国際的な最前線で戦える力を身に付けることができるカリキュラムを用意しています。

文理融合カリキュラム

海外で資源の開発を行う上で、開発に必要な地球科学、資源工学といった理系の知識はもちろんのこと、その国の政治・経済状況、文化や制度を知っておくことは、極めて重要な意味を持っています。国際資源学部では、専門科目の一部はコースを横断して履修できるカリキュラムとなっており、文系理系の枠を越えて資源学を修める上で共通に求められる知識・技術を修得することができます。企業が海外での資源戦略を展開する上では、文系の知識と技術系の知識の両方が必要になり、文理融合の視点は欠かせません。

海外実習必修の教育制度

3年次の後半に、全ての学生が海外資源フィールドワークに参加します。国際資源学部では、国内の大学や企業はもちろん、海外の大学や企業からも協力を得て、学生全員が海外で4週間程度の資源学に関連するフィールドワークを実施できるネットワークを用意しています。これまでの実績としては、ヨーロッパや北米、南米、東南アジア、中央アジア、中東、アフリカなど、まさに世界中を対象としたプログラムを実行してきました。実際に操業している鉱山での研修や、海外の大学でのレクチャーの受講、研究施設や企業の資源ビジネスの現場を訪問することで、地球と資源、資源と人間との関係について実感をもって学ぶことができます。

I-EAP（集中大学英語）

「I-EAP」とは、Intensive-English for Academic Purposesの略。英語力を「読む（reading）」「聞く（listening）」「書く（writing）」「話す（speaking）」「プレゼンテーション（presentation）」の5つの技能に区分し、8週間一区切りで個別技能の教育を行う集中講座。授業は全て英語で行い、技能ごとの目的に合った教材を担当教員が選定し、少人数編成のクラスで基礎英語力を徹底的に鍛えます。

ディスカッション演習 ディベート演習 プレゼンテーション技法

実際に英語で議論ができるようになることを目標に学習を進めていきます。語学力の面でも、国際的な最前線で戦える力を身に付けます。

国際資源クリエイティブ演習

全学生必修の海外資源フィールドワーク（鉱山・石油関連企業や商社・国際協力機関等での4週間程度の実習）の目的を理解し意義あるものにするため、事前・事後学習の場としての国際資源クリエイティブ演習を設けます。

教育文化学部

教育文化学部は、教員養成を担う学校教育課程と地域協働の核となる人材養成を担う地域文化学科の1課程1学科からなります。学校教育課程は、教育現場との密接な連携を図りつつ、実践力のある教員を養成、全国最高水準の秋田県教育の継承と発展・普及を目指します。地域文化学科では、社会科学・人文科学などの多様な学問分野の学習と、地域と連携した授業・フィールドワークなどの実習を通じて、地域の諸課題についてグローバルな視点とローカルな視点から実践的に学ぶことができます。様々な課題を抱える教育や地域に貢献し、持続可能な社会を作るためにみなさんの力が求められています。現場に根ざした実践的な学びは世界と未来につながり、みなさんの人生を豊かなものにしてくれるでしょう。

■学部の構成（1課程1学科）

【学校教育課程】

地域の教育の活性化に貢献する教員を養成します。

●教育実践コース

小学校教員の養成を主とし、中学校教員養成も含めて、小中連携にも対応できるようになるとともに、子どもの心身の成長発達について理解を深め、全国トップクラスの学力を支える高度な実践力を持った教員を養成します。

●英語教育コース

小中高の連携による英語教育を実践できるとともに、英語力のみならず言語学的知識と英語圏文化の素養を身につけた上で、異文化間コミュニケーション能力を持った教員を養成します。

●理数教育コース

理科または算数・数学の体系的な知識と指導法を身に付け、理科や算数・数学のおもしろさを子どもに伝えることができ、実感を伴った理解へと学習を発展させることができる教員を養成します。

●特別支援教育コース

特別支援学校及び小・中学校等で特別支援教育を担うとともに、インクルーシブな環境で、発達の特性や特別なニーズに対応した支援を実践できる教員を養成します。

教育実習の様子

●こども発達コース

幼稚園や保育所の教員・保育士及び小学校教員の養成を主とし、幼保小連携に対応できるスキルを身につけるとともに、人間の生涯にわたる発達過程や、幼児教育・保育と学校教育の全課程を見通しながら省察できる教員を養成します。

【地域文化学科】

地域社会や文化の活性化に貢献する人材を養成します。

●地域社会コース

法学、政治学、経済学、経営学、社会学、マーケティングなどの社会科学を軸にしながら、地理学、環境科学、食健康学、住環境学や情報科学も併せて学べます。さらに学内外での授業を通じて得た知識や技能を用いて、総合的かつ多角的に地域社会をとらえる能力の修得を目指します。

●国際文化コース

日本を含むアジアと欧米の言語・文化について、文学・歴史学・哲学・芸術学・言語学などの人文科学的な視座から学ぶことができます。体系的な外国語教育プログラム（英・独・仏・露・中国・朝鮮語）や海外研修も活用しながら、国際社会の多様なあり方を幅広く理解した上で、その知見を地域文化の活性化につなげられる能力の修得を目指します。

●心理実践コース

心理学に必要な理論や実践、統計法、面接法などについて、基礎から応用までを体系的に学べます。さらに学んだ知識や技能を用いて、地域の問題や課題を考え、様々な活動や調査研究が行える能力の獲得を目指します。

地元企業と連携した特産食品開発の様子（コアカリキュラム・地域学基礎）

講義（国際文化理解）

箱庭療法の実習
（臨床心理査定演習Ⅰ）

医 学 部

秋田大学医学部は医学科と保健学科の2つの学科で構成され、医学科では医師を、保健学科では看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士の育成を通じて、社会に貢献することを目指しています。1970年に創設されて以来、5,000名以上の卒業生を送り出し、秋田県内はもとより全国各地で医療の最前線に立つとともに、医療界の様々な分野の指導者として活躍しています。

今、日本は激動の時代を迎えています。毎年のように各地で発生する地震や集中豪雨、今年になって急速に拡大した新型コロナウィルス感染症等、人々の生活や健康が脅かされています。少子高齢化に歯止めはかからず、地方における医師・看護師不足がますます深刻化しています。こういう時代だからこそ、みなさんの力が必要です。皆さんとともに日本の医療・医学・保健・福祉に貢献できるよう、一緒に頑張りましょう。

■学部の構成（2学科）

【医学科】

医療に関する幅広い専門知識と高度な技術を身につけた人材を養成します。

【保健学科】

看護学・理学療法学・作業療法学の3専攻3講座を設けており、医療専門職（看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士）を養成します。

医学科	医学専攻の39講座と3つの臨床教育協力部門の教員が教育を担当する	
保健学科	専攻	教育担当組織
	看護学	●看護学講座 ●理学療法学講座 ●作業療法学講座
	理学療法学	
	作業療法学	

医学科 6年

入学

初年次ゼミ
教養基礎教育科目

専門教育科目

臨床実習

卒業試験

卒業

学位：学士（医学）

●医師国家試験

保健学科 4年

◆看護学専攻
◆理学療法学専攻
◆作業療法学専攻

入学

初年次ゼミ
教養基礎教育科目

専門科目
専門基礎科目

臨地実習
臨床実習

卒業研究

卒業

学位：学士（看護学・保健学）

●看護師国家試験

●理学療法士国家試験
（助産師国家試験）※選択
（保健師国家試験）※選択

●作業療法士国家試験

理工学部

ビッグデータを基に新しい知見を得るデータ駆動型サイエンスは、実験科学、理論科学、計算科学に次ぐ第4番目の科学的手法に位置付けられ、今後ますます重要な役割を果たします。理工学部では各専門分野の基本を習得するとともに、データ駆動型サイエンスの基礎となるAIやデータサイエンスを活用する能力を身に付けます。そして、自ら課題を発見して未知の課題に対しても幅広い視野から柔軟に取り組む能力を修得させる学士課程教育を実施します。一方で学生の留学を積極的に支援しグローバルな視野を広げることを推進します。

■学部の構成（4学科）

【生命科学科】

医療、食料、環境など、ライフサイエンスに関連するさまざまな課題に挑戦する研究者・技術者を育成します。

●生命科学コース

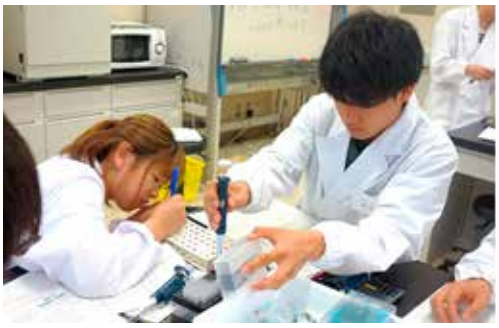
多様な生命現象を、生体を構成する分子レベル、個々の細胞や個体レベル、生物の集団レベルで解明することについて学びます。

【物質科学科】

先端機能材料や化学プロセスに携わる研究者・技術者を育成します。

●応用化学コース

無機材料、有機材料、エネルギーに関連した化学工学からバイオプロセスまで幅広い化学の専門分野を学びます。



●材料理工学コース

固体物理学、固体化学、金属材料学、セラミック材料学を中心として基礎科学から材料の工学的応用までの幅広い分野について学びます。

【数理・電気電子情報学科】

数学・物理から電気・電子、情報通信の各分野をリードする多彩な人材を育成します。

●数理科学コース

代数学・幾何学・解析学等の数学、量子力学等の理論物理学、AIを含むコンピュータサイエンスを中心とする数理科学について幅広く学びます。

●電気電子工学コース

電磁気学・電気回路などの基礎科目と、電気エネルギー、光・電子デバイス、材料、情報通信、計測制御、システムなどの幅広い専門分野から自分で興味のある科目を選択して学びます。

●人間情報工学コース

ヒューマンコンピュータインタラクション、福祉情報工学、画像解析学、情報通信とネットワークを中心として、コンピュータサイエンスを基礎とした高度な応用技術を学びます。

【システムデザイン工学科】

新しいものづくりができる実践的な技術者を育成します。

●機械工学コース

材料、熱流体、制御、製図など、あらゆる産業を支える機械工学の基礎分野に加え、医用生体工学、ロボット工学、流体機械、航空機システム工学などで応用分野を学びます。

●土木環境工学コース

構造設計学、建設材料学、地盤工学、水理学などを中心として、安全・安心・快適な地域環境を創造・保全する技術について学びます。

■通信教育講座

秋田大学理工学部には、国立大学法人唯一の「社会通信教育講座」があります。昭和23年の開講以来、伝統と歴史を背景に、約1,900名を超える修了生を社会に輩出しています。

科学技術に関する教養的な知識を得るための一般科学技術コースと、資源系、材料系、電気電子系の基礎及び専門を学べるコースが用意されています。

大学院

国際資源学研究科

国際資源学研究科は、地球規模の課題となった資源問題の解決を目指し、資源地球科学分野および資源開発環境学分野に関する高度な知識と専門性に裏付けられた最先端の教育・研究を進め、地球科学から資源開発、環境保全に至る広範な知識を修得し、グローバルリーダーとして活躍できる人材を養成します。

博士前期課程
資源地球科学専攻 資源開発環境学専攻
博士後期課程
資源学専攻

教育学研究科

教育学研究科は、理論と実践の往還を通じて現場の課題を解決し、実践知の継承と創造に取り組む意欲と高度な力量を有する初等中等教員の養成と、教員や学校等を支援して地域の発展に貢献できる高度専門職業人の養成を目的としています。本研究科には、教職実践専攻（教職大学院）と心理教育実践専攻（修士課程）の2専攻があります。

教職大学院（専門職学位課程）	
教職実践専攻	学校マネジメントコース カリキュラム・授業開発コース 発達教育・特別支援教育コース
修士課程	
心理教育実践専攻	心理教育実践コース

医学系研究科

医学系研究科は、人類の健康・福祉の発展に寄与する医学・医療・生命科学の最先端研究を推進できる国際的視野を備えた優れた研究者・高度専門医療人を育成することを目的としています。

修士課程		
医科学専攻		
博士前期課程・博士後期課程		
保健学専攻	博士 前期課程	看護学領域 リハビリテーション科学領域
	博士 後期課程	生涯発達・健康支援看護学分野 生活機能・健康行動支援科学分野
博士課程		
医学専攻	病態制御医学系　腫瘍制御医学系　機能展開医学系 社会環境医学系　臨床教育協力部門	

理工学研究科

理工学研究科では、各専門分野を体系的に学び、深い知識を習得した上で周辺分野と学際的な連携を積極的に進め、新たな応用を追求し新しい価値を創出する総合的能力を身に付け、グローバルな視野とともに地域貢献への強い想いを持った人材を育成します。様々な分野の概念や手法を統合してまだ誰も形にしたことのないイノベーションを追い求める人材を育成する修士・博士課程教育を実施します。

博士前期課程	
生命科学専攻	生命科学コース
物質科学専攻	応用化学コース　材料理工学コース
数理・電気電子情報学専攻	数理科学コース　電気電子工学コース 人間情報工学コース
システムデザイン工学専攻	機械工学コース　土木環境工学コース
共同ライフサイクルデザイン工学専攻	
博士後期課程	
総合理工学専攻	生命科学領域　物質科学領域 数理・電気電子情報学領域 システムデザイン工学領域

大学施設

附属図書館

医学部附属病院

国際資源学研究科附属鉱業博物館

附属学校園及び教育研究施設等
○附属幼稚園 ○附属小学校 ○附属中学校 ○附属特別支援学校
○附属教職高度化センター ○附属鉱業博物館
○附属病院 ○附属病院シミュレーション教育センター
○附属地域包括ケア・介護予防研修センター
○附属革新材料研究センター
○附属クロスオーバー教育創成センター ○附属地域防災力研究センター

学内共同教育研究施設
○情報統括センター ○バイオサイエンス教育・研究サポートセンター
○放射性同位元素センター ○環境安全センター ○産学連携推進機構
○国際資源学教育研究センター ○地方創生センター
○高齢者医療先端研究センター

センター
○評価・IRセンター ○高等教育グローバルセンター ○学生支援総合センター
○高大接続センター ○教員免許状更新講習推進センター

技術組織
○総合技術部

福利厚生施設等
○保健管理センター
○大学会館（クレール）〈手形キャンパス〉 ○本道会館（メディココ）〈本道キャンパス〉
○学生寮 ○国際交流会館 ○留学生会館

体育施設
○陸上競技場 ○野球場 ○球技場 ○ハンドボール場 ○大体育館 ○小体育館
○柔剣道場（武道場） ○弓道場 ○テニスコート ○プール（25m） ○運動場

東京サテライト

横手分校・北秋田分校・男鹿なまはげ分校

インフォメーションセンター

附属図書館

University Library

中央図書館（正面玄関）

●附属図書館は中央図書館（手形キャンパス）と医学図書館（本道キャンパス）からなり、図書・雑誌・視聴覚資料・電子情報等の学術資料の体系的な収集管理と提供を行っています。

●蔵書冊数　中央図書館：431千冊　医学図書館：113千冊

〈開館時間〉

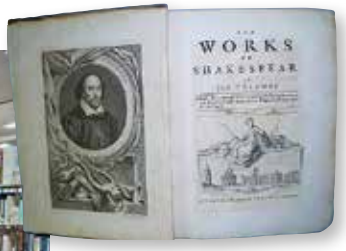
区　分	授業期間	長期休業期間
平　日	8:30～22:00	8:30～17:00
土・日・祝	12:00～18:00	休　館

●附属図書館は学生・教職員の学習・教育・研究の支援をしています。学生のアクティブ・ラーニングを実現する新しい学びの場としてコモンズ・グループ学習室が整備されています。また、地域に開かれた図書館として、一般の方にも開放しており、閲覧・貸出サービスをご利用いただくことができます。

〈サービス内容〉

- ●閲覧　●貸出・予約
- ●文献複写　●レファレンス
- ●蔵書検索　●各種データベース
- ●PC等の機器利用

中央図書館閲覧フロア



特別コレクション。
18世紀に出版された
シェイクスピア全集等を
所蔵しています

中央図書館ラウンジ

中央図書館コモンズ

医学図書館コモンズ

●詳細についてのお問い合わせは

〈中央図書館・利用サービス担当〉
TEL.018-889-2279　E-mail : libriyo@jimu.akita-u.ac.jp

〈医学図書館〉
TEL.018-884-6052　E-mail : ibun@jimu.akita-u.ac.jp

〈附属図書館ホームページ〉
https://www.lib.akita-u.ac.jp/top/

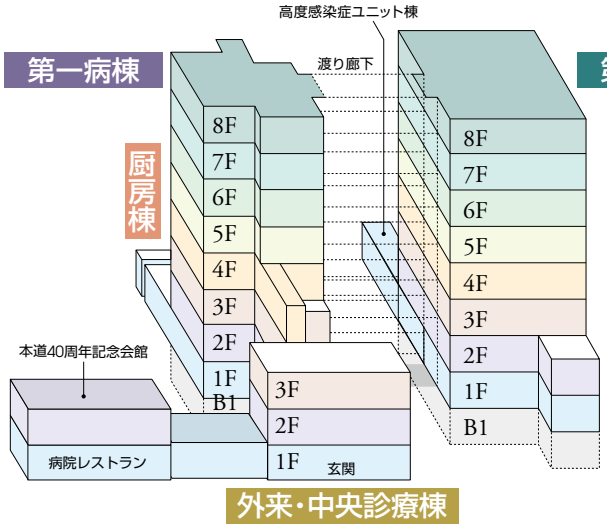
医学部附属病院

医学部附属病院（正面）

医学部附属病院は、教育研究施設であるとともに、地域における医療機関の中核として各専門分野にわたる豊富な知識と最新の医療機器等による診療機能を駆使する医療機関であり、平成６年には特定機能病院として承認を受け、地域に対する指導的役割を担う病院として、今後なお一層地域社会への貢献を行います。

また、患者にとって安心できる医療環境の下で、良質で高度な医療を適切に提供することをとおして、優れた医療人の育成と医学研究の進歩のため積極的に役割を果たすとともに、地域医療・保健活動の中心としての役割を担い、さらに国際的にも貢献できるよう努めます。

〈病院案内図〉



令和2年4月1日現在

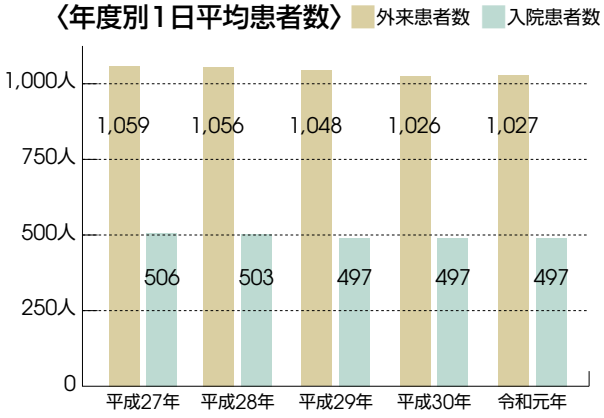
		第一病棟	外来・中央診療棟	第二病棟	
	8F	整形外科　神経内科		血液内科 腎臓内科 リウマチ科	
	7F	眼科　呼吸器外科 乳腺・内分泌外科　麻酔科　救急科		呼吸器内科 耳鼻咽喉科	
	6F	消化器外科　食道外科		消化器内科 腫瘍内科	
	5F	小児科　小児外科 新生児集中治療管理室（NICU） 回復期治療室（GCU）		産科　婦人科 糖尿病・内分泌内科 老年内科 周産母子センター	
	4F	脳神経外科　皮膚科　形成外科 臨床研究支援センター ひまわり学級　けやき学級		循環器内科 心臓血管外科	
	3F	集中治療部（ICU） 中央手術部	皮膚科　形成外科　精神科　病理診断科・病理部 腫瘍情報センター　医療安全管理部　看護部	精神科	
厨房棟	2F	血液浄化療法部 感染制御部 輸血部	消化器外科　食道外科　消化器内科 血液内科　腎臓内科　リウマチ科　泌尿器科　耳鼻咽喉科 歯科口腔外科　腫瘍内科　外来化学療法部　脳神経外科　麻酔科 漢方外来　小児科　小児外科　中央検査部　薬剤部 緩和ケアセンター	泌尿器科 糖尿病・内分泌内科 老年内科	
栄養管理部	1F	放射線診断科 放射線治療科 歯科口腔外科 理容室	総合診療部　緩和ケア外来　がん看護外来　循環器内科　呼吸器内科 心臓血管外科　呼吸器外科　乳腺・内分泌外科　産科　婦人科 眼科　整形外科　神経内科　心療センター　高齢者臨床検査科 認知症医療センター　糖尿病・内分泌内科　老年内科 リハビリテーション科　放射線診断科　放射線治療科　中央放射線部 地域医療患者支援センター・がん相談支援センター 外来受付・会計　入院案内　医事課　医療サービス室 売店　コーヒーショップ　ATM　警備員室　防災センター 院内図書室　病院レストラン　入院セット受付窓口　栄養相談室	救急部 救急外来 内視鏡・超音波センター 検食室 心大血管リハビリテーション室	高度感染症ユニット棟
	B1	医療情報部　医事課医療情報室 放射線治療センター 中央材料部　SPDセンター		臨床工学センター	

〈診療科別入院及び外来患者数〉

令和元年度

区分	入院		外来	
	延患者数	一日当平均患者数	延患者数	一日当平均患者数
消化器内科	10,756	29	17,261	71
神経内科	2,402	7	5,485	22
循環器内科	10,011	27	14,860	61
呼吸器内科	6,202	17	5,718	23
血液内科	12,074	33	6,424	26
腎臓内科	1,324	4	2,193	9
リウマチ科	1,620	4	5,895	24
糖尿病・内分泌内科	3,548	10	15,181	63
老年内科	0	0	0	0
消化器外科	8,291	23	4,105	17
呼吸器外科	5,787	16	3,098	13
食道外科	6,474	18	2,138	9
乳腺・内分泌外科	1,522	4	5,945	25
心臓血管外科	10,118	28	1,808	8
脳神経外科	9,199	25	7,148	30
小児外科	1,342	4	1,743	7
小児科	7,682	21	7,833	33
産科	5,386	15	4,543	19
婦人科	6,116	17	13,417	56
精神科	9,441	26	14,004	58
整形外科	13,273	36	15,259	64
皮膚科	5,689	16	18,205	76
形成外科	0	0	593	2
泌尿器科	12,361	34	16,466	69
眼科	7,832	21	19,209	80
耳鼻咽喉科	10,946	30	12,349	51
放射線診断科	156	0	1,247	5
放射線治療科	2,061	6	4,356	18
麻酔科	0	0	1,039	4
リハビリテーション科	0	0	0	0
腫瘍内科	4,314	12	2,728	11
救急科	1,363	4	2,468	10
病理診断科	0	0	0	0
歯科口腔外科	3,970	11	13,728	57
高齢者臨床検査科	0	0	12	1
計	181,260	497	246,458	1,027

〈年度別1日平均患者数〉



〈中央診療施設等〉

●中央検査部　●中央手術部　●中央放射線部
●中央材料部　●集中治療部　●救急部　●輸血部
●リハビリテーション部　●医療情報部
●血液浄化療法部　●中央病歴部
●周産母子センター　●病理部　●総合診療部
●臨床研究支援センター　●臨床工学センター
●移植検査センター　●総合臨床教育研修センター
●内視鏡・超音波センター　●遺伝子医療部
●腫瘍情報センター
●地域医療患者支援センター・がん相談支援センター
●化学療法部　●緩和ケアセンター
●心療センター　●栄養管理部　●肝疾患相談センター
●腎疾患先端医療センター
●脳卒中包括医療センター　●認知症医療センター

●医療安全管理部　●感染制御部　●薬剤部　●看護部

ヘリポート及び立体駐車場

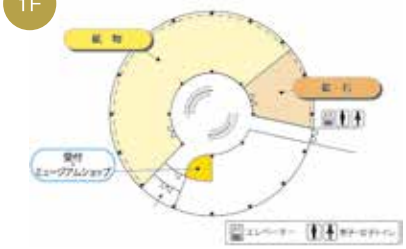
国際資源学研究科附属鉱業博物館 Mineral Industry Museum

鉱業博物館は、秋田大学の研究活動において収集された、地球と資源に関する資料や標本を展示・保管している国際資源学研究科の附属施設です。

その沿革は、鉱山技術者養成のため1910年に設立された秋田鉱山専門学校の列品室にはじまります。その後、新制大学発足当時の鉱山博物館を経て1961年に現在の建物が建設され、鉱業博物館となりました。

常時公開されている展示棟では、様々な鉱物・鉱石・岩石・化石を見学でき、地球の歴史と資源の生成について学ぶことができます。また、鉱山機械の実機や精密模型を用いて、資源開発の流れと鉱山技術をわかりやすく解説しています。また、期間限定の特別展や開放講座を通して、最新の研究や幅広い学術分野の成果を紹介しています。

1F



1階は、鉱物と鉱石を展示しています。ここに展示された標本は秋田鉱山専門学校設立以来のスタッフや学生、OBらが収集したり、鉱山から寄贈された標本が母体になっています。国内最大規模の約500種2200点におよぶ貴重な標本を見ることができます。

2F

2階は隕石、岩石、地層、化石の標本を展示しています。展示室に入ると「太陽系の中の地球」「岩石」「地球表層の諸現象」「秋田の生い立ち」「地球生命史」の5つの展示コーナーがあります。私たちの地球はどのような物質からでき、どのような現象が起きていたのか、生命はいつごろ誕生し、どのように進化したのかについて、多数の標本とパネル、そしてツールを利用して読み解くことができます。

3F

3階は、「資源開発」についての展示です。資源の開発技術は、多岐にわたっていますので、当館では、資源開発の流れを「探鉱」「採鉱・採油」「選鉱」「製錬」の4つの工程に分類し、鉱物の探査から金属の製造まで、それぞれを独立したコーナーとして展示しています。この他にも、「鉱物資源の分布」「鉱山の保安技術」「自然エネルギー」「秋田の鉱山史」の展示を設け、鉱山技術の全容とその変遷が学べるようになっています。

〈ご利用案内〉
- 開館時間：9：00～16：00
- 休館日：年末年始（12月26日～翌年1月5日）
  12月～2月の日曜日と祝日
- 入館料：大人100円／高校生以下無料
- 無料館内案内：サイエンスボランティアによる館内案内を行っています。（一週間前まで要予約）

Googleストリートビューサービスにて鉱業博物館内を公開しています。展示棟1階から3階までを、360度のパノラマ写真で見渡せるようになりました。パソコンやスマートフォンの画面から簡単に見ることができますので、館内のバーチャル体験や、ご見学前の下見などにご活用ください。Googleマップで、「鉱業博物館」と検索していただくか、こちらのQRコードからご覧いただくことができます。

附属学校園及び教育研究施設等

Affiliated School Facilities for Education and Research

附属中学校

令和2年5月1日現在

区分		総定員	学級数	現員 1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
附属幼稚園	3年保育	96	4	〈3歳児〉22		〈4歳児〉29		〈5歳児〉32		83
附属小学校		576	18	96	94	91	91	91	92	555
附属中学校		432	12	144	145	143	―			432
附属特別支援学校	小学部	18	3	4		6		6		16
	中学部	18	3	5	6	6	―			17
	高等部	24	3	6	8	8	―			22

〈教育文化学部〉
●附属学校園

〈教育文化学部〉
●附属教職高度化センター

【施設目的】
学習環境及び教育臨床等の教育実践、教員養成学に関する総合的研究

【研究部門等】 教職研究部門、教育実践研究部門、教員育成連携支援部門、臨床心理学部門、教職キャリア支援室、県総合教育センター・市教育研究所連携推進室、臨床心理相談室

〈国際資源学研究科〉
●附属鉱業博物館

【施設目的】
●鉱業に関する教育、研究及び調査を行う。
●鉱業関係の博物館資料の収集、保管及び展示

●標本資料／約20,000点
●公開標本／約3,300点

〈医学部〉
●附属病院

【施設目的】
患者の診療を通じて医学の教育及び研究を行う。

●診療科／35科 ●病床数／615床

〈医学部〉
●附属病院シミュレーション教育センター

【施設目的】秋田県内医療人の更なるスキルアップと質の高い専門医の養成に繋げ、医学シミュレーション教育が秋田県の医療再生の礎となるよう、秋田県と秋田大学の協同によって開設

●1階：TVセミナー室、画像診断学習室 ●2階：緊急処置ラボ、臨床基本手技ラボ ●3階：外科研修室、外科手技ラボ、産婦人科手技ラボ、臨床専門手技ラボ

〈医学系研究科〉
●附属地域包括ケア・介護予防研修センター

【施設目的】
高齢化率全国1位の秋田県における地域包括ケアシステム（自分が望む場で自分らしく最後まで暮らせるような地域のケア体制）構築に向けて、大学の持つ教育・研究・地域貢献機能を用いて参与し貢献する。

【センター活動内容】
看護職、介護職、ケアマネジャーなどを対象とした、教育活動としての現任教育プログラムの開講、専門職や地域住民を対象とした講演会の開催（28年度）。地域貢献として認知症サポーター養成の出前講座の開催、暮らしの保健室開設（27年度）など。

〈理工学研究科〉
●附属地域防災力研究センター

【施設目的】
自然災害の防止・軽減に資する研究を推進するとともに、地域の防災・減災に関する研究と支援等を通して、安全・安心な地域社会の形成に貢献する。

【研究部門等】
地震災害分野、津波災害分野、河川災害分野、斜面災害分野、火山災害分野、情報・計画分野

〈理工学研究科〉
●附属クロスオーバー教育創成センター

【施設目的】
理工系実践教育に関するさまざまな新しい取り組みを行い、学生及び教員双方の質の向上に貢献する。

【センター活動内容】
留学相談、学生自主プロジェクト、子どもものづくり教室、英語による科学教室、テクノキャリアゼミなど

〈理工学研究科〉
●附属革新材料研究センター

【施設目的】
秋田大学の強みである「材料・素材研究」をもとに新しい価値を創出

【専任教員・兼務教員の研究分野】
エレクトロモビリティ分野
エネルギー高度利用分野

学内共同教育研究施設

●情報統括センター

【設備等】
- ●教育用PC（約400台）：PC実習室1,2,4、PC実習室A/B、本道PC実習室、グループ学習コーナー、スキャナーコーナー、多言語コーナー、中央図書館、医学図書館
- ●情報サービス:Webメール、大判プリンタ、演算サーバ、仮想サーバホスティング
- ●情報ネットワーク
  有線LAN（フロアスイッチまで1～4Gbps）、無線LAN、学外接続ネットワーク（20Gbps）

●産学連携推進機構

【設置目的等】
民間等外部の機関との共同研究を推進することにより、秋田大学の教育・研究の進展を図るとともに、研究成果の知的財産化及び知的財産の社会実装を促進し、社会における技術開発の振興及び技術発展に寄与する。

●国際資源学教育研究センター

【設置目的等】
国際的視野を持つ高度資源開発人材の養成と我国の資源セキュリティ及び安定供給体制の確立に貢献するとともに、国際資源人材ネットワークを通して一層の国際交流及び国際貢献を図る。

●高齢者医療先端研究センター

【設置目的等】
高齢者医療等に関する体制充実を図ることにより、認知症及び地域社会学の知見を踏まえた高齢化社会の学際的研究と高齢者医療の先端的研究を推進し、地域医療の向上と長寿・健康教育研究の発展に寄与することを目的とする。

●バイオサイエンス教育･研究サポートセンター

【設備等】
- ●動物実験部門：【飼育設備】マウス、ラット、モルモット、ウサギ、ネコ、イヌ、ブタなどに対応【特殊実験設備】感染動物実験室、ケミカルハザード実験室など【解析機器】3DマイクロX線CT装置、超音波イメージングシステム、in vivo 発光･蛍光イメージングシステム、X線テレビシステムなど【研究支援業務】生殖工学的技術支援（凍結保存、個体作製）、遺伝子改変動物の作出、動物実験手技の指導など
- ●放射性同位元素部門：【設備】サーベイメータ、液体シンチレーションカウンター、スキャナタイプ画像解析装置など【使用承認核種】^{32}P, ^{3}H, ^{125}Iなど15核種【実験サポート体制】RI業務従事者の実験を部門職員が受託するサービス有り（応相談）
- ●分子医学部門：【共用設備】共焦点レーザー顕微鏡、透過型電子顕微鏡、フローサイトメータ、次世代シーケンサ、LC/MS装置、オールインワン蛍光顕微鏡、遠心機各種、分光光度計各種、培養室、バイオハザード室、クリオスタット、液体窒素、超低温フリーザ、大判プリンタなど【受託】組織標本作製、遺伝子解析、電顕標本作製、滅菌
- ●教育研究連携部門

●放射性同位元素センター

【設備等】
- ●非密封線源実験エリア：−10℃及び4℃低温実験室：オークリッジフード3基及び安全キャビネット1基、液体シンチレーションカウンター、トリチウムガス計測･実験装置、各種スケーラー、サーベイメーター、プレートアナライザー
- ●密封線源実験エリア：マルチチャンネルγ線スペクトルメーター、高速液体クロマトグラフ質量分析装置、イメージアナライザー、水平型X線回折装置

16種類の非密封線源及び5種類の密封線源が使用可能

●環境安全センター

【設備等】
- ●廃液処理棟：無機系廃液−フェライト化処理、有機系廃液／有害固形廃棄物−噴霧燃焼／焼却処理、水銀・シアン系廃液−酸化分解・吸着処理、フッ素・リン酸系廃液−石灰化処理、COD廃液−フェントン処理
- ●実験・分析棟：ガスクロマトグラフ／質量分析計、ガスクロマトグラフ、原子吸光光度計、液体クロマトグラフ、X線分析装置、その他必要機器

●地方創生センター

【設置目的等】
地方創生に取り組む地(知)の拠点大学として、地域との協働による地域振興策の取組及び地域の防災等に関する研究・支援並びに地域の産業を成長させる研究を推進させ、もって地域を担う人材育成を推進し、地域の産業振興と活性化に貢献する。

●地方創生センター1号館

【設備等】
超純水製造装置、ドラフトチャンバー、マイクロウェーブ試料前処理システム、超高分解能電界放射型走査型電子顕微鏡、炭素・水素・窒素・硫黄・酸素全自動分析装置、フレーム/ファーネス高分解能連続光源原子吸光分析装置、元素分析装置、高分解能核磁気共鳴スペクトル装置(600MHz)、X線光電子分光分析装置、マイクロフォーカスX線CT透視装置、水銀ポロシメータ、超高速液体クロマトグラフシステム、光散乱GPC分子量測定装置、テラヘルツ分光測定装置、バイポーラ電源、活性汚泥処理装置、スプレードライヤ装置、比表面積・細孔径分布測定装置、触媒分析装置、リアルタイムPCRシステム、マルチラベルカウンター、回転式粘度計、四重極-飛行時間型MS/MS分析システム、ガス吸着量測定装置、モジュール式電気化学測定システム、共焦点レーザ走査型顕微鏡、マトリックス支援レーザ脱離イオン化法飛行時間型質量分析装置、バイオクリーンベンチ

●地方創生センター2号館

【設備等】
- 新リサイクル技術・評価システム:ナノ粒子解析装置、イオンクロマトグラフィー、形状測定マイクロスコープ、走査型プローブ顕微鏡、ICP発光分光分析装置、示差熱天秤、ディスク型手動粉砕機、ロール型磁選機、非鉄金属選別機(渦電流選別装置)、真空アーク溶解炉、蛍光X線分光分析装置、金属分散度測定装置、空気テーブル、湿式高磁力磁選機など
- 高度機能素材設計・評価システム:電界放射型走査電子顕微鏡、多元合金膜作製装置、走査電子顕微鏡、高真空型走査プローブ顕微鏡、高感度磁化測定装置、高真空熱処理装置、薄膜X線回折装置、粉末X線回折装置、磁気記憶装置材料分析・評価システム、ナノ粒子粒径解析/ゼータ電位計、液体窒素製造装置、表面粗さ測定装置など

センター

Center for Education and Research

	設置目的等
評価・IRセンター	● 秋田大学における自己点検・評価活動とその改善努力の支援 ● 評価とそのシステムについての研究・開発 ● 学内外の各種情報の活用・分析
高等教育グローバルセンター	● 教養基礎教育を中心とする教育体制の構築と教育活動の推進 ● 教養基礎教育及び専門教育の調査・研究・開発による改善・充実 ● 国際交流に関する企画・広報活動 ● 国際学術交流の推進 ● 国際教育交流の推進
学生支援総合センター	● 種々の生活相談及び授業料免除や奨学生推薦等の生活支援 ● 大学祭等の課外活動支援及び課外活動施設の整備・充実の推進 ● 就職ガイダンスの実施及び就職情報提供、就職相談等の就職活動支援
高大接続センター	● 高校と大学の学びの接続 ● アドミッションポリシーを踏まえた入学者選抜方法の研究・開発 ● 入学希望者に対する広報活動の企画・立案
教員免許状更新講習推進センター	● 教員免許状更新講習の企画・実施 ● 秋田県教育委員会・県内大学等諸機関との連携

技術組織

Technological Organization

	設置目的等
総合技術部	● 教育研究活動の技術支援を全学的に推進 ● 技術系職員が持つ専門技術を本学の共通の財産として継承・発展させ、その能力及び資質等の向上を図るとともに優れた人材を確保

福利厚生施設等

Welfare Facilities

施　設	主な設備内容
保健管理センター	学生相談室、休養室、診察室、処置室、エックス線室、待合ホール、聴力検査室、心電図室、カウンセリング室、検査室、所長室、准教授室、事務室、倉庫、多目的W.C.
大学会館(クレール)〈手形キャンパス〉	●1階／管理事務室、食堂、厨房、食品・弁当コーナー、アメニティーコーナー、キャリアステーション、自販機コーナー、イベントホール ●2階／研修室(1・2・3)、和室(あじさい・りんどう)、会議室、書籍・文具・旅行コーナー
本道会館(メディココ)〈本道キャンパス〉	●1階／食堂、厨房、売店、事務室、倉庫 ●2階／研修室、談話室、部室、小会議室、物品庫
学　生　寮	
国際交流会館	●居　　室／単身室(外国人留学生用28室、外国人研究者室5室)、家族室(外国人研究者用2室)、夫婦室(外国人研究者用3室) ●管理関係／管理室、設備室、倉庫 ●共用関係／多目的ホール、ミーティングルーム、洗濯室
留学生会館	●居室／単身室(27室)、夫婦室(3室) ●管理関係／事務室、機械室、倉庫 ●共用関係／談話室、和室、洗濯室

区　分	手形寮〈女子〉(留学生除く)	本道寮〈女子〉(留学生除く)	西谷地寮〈男子〉(留学生含む)
建物延面積	746㎡	1,076㎡	3,171㎡
室　数	40室	31室	130室
収容定員	40人	31人	130人

手形キャンパス内の大学会館(クレール)

西谷地寮

国際交流会館

留学生会館

体育施設

Sports Facilities

施　設	面　積(㎡) 手形地区	本道地区	保戸野地区	備　考
陸上競技場	24,637	20,909	―	400m／6コース、メイン／8コース
野球場	20,378		―	―
球技場	陸上競技場と併用	陸上競技場と併用	―	サッカー、ラグビー(本道地区はサッカー、ラグビー、準硬式野球)
ハンドボール場		―	―	―
大体育館	2,591	1,079	3,588	バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、バドミントン、柔道、剣道　等 (本道地区はバレーボール、バドミントン、バスケットボール、卓球、フットサル、ハンドボール)
小体育館	750	―	―	体操、卓球、空手道　等
柔剣道場(武道場)	―	―	373	柔道、剣道
弓道場	149	―	―	的場(44㎡)は含まない
テニスコート	(5面)3,238	(5面)3,614	―	―
プール(25m)	800	―	―	7コース
運動場	―	―	14,923	―

陸上競技場(手形地区)

体育館(手形地区)

東京サテライト

Tokyo Satellite

受験生への情報提供を行うとともに、産学官連携の推進や首都圏での社会貢献活動を行うための拠点として「秋田大学東京サテライト」を設置しています。

〈業務紹介〉

1. 受験生への情報提供
- 入試説明会、各学校への情報の提供、訪問活動

2. 産学官連携活動の支援
- 共同研究、科学技術相談の窓口
- 学術情報、技術シーズの提供
- シンポジウム、学会、研究会などの学術会議の開催
- 研究者、研究成果の紹介

3. 社会貢献活動の支援
- 講演会、セミナーなどの開催

4. 就職活動の支援
- 企業からの求人の申込
- 在学生への就職情報の提供

5. 同窓会活動の支援
- 同窓会への大学情報などの提供

●**所在地**　〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6
東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター 606号室
●**TEL** 03-5440-9104(FAX兼用)
●**ホームページ**　https://www.akita-u.ac.jp/honbu/satellite/

キャンパス・イノベーションセンター

横手分校・北秋田分校・男鹿なまはげ分校

秋田大学の県内への情報発信と、より密接な地域連携を目指して、横手市、北秋田市、男鹿市へそれぞれ分校を開設しています。

横手分校
〈平成21年8月5日開設〉

- 学生による「いぶりがっこ」の製造をはじめとする地域活動への学生参加など地域課題の解決に向けた取り組みを実施しています。
- 教師を目指す学生たちを対象とした「教育ミニミニ実習」「小学生向け国際交流体験プログラム」などの小中高大連携事業を推進しています。

●**連絡先**
〒013-0036 横手市駅前町1-21
横手市交流センター Y²ぷらざ内
●**TEL** 0182-38-8304
●**FAX** 0182-32-4056

北秋田分校
〈平成22年11月17日開設〉

- 農薬と化学肥料を使わない昔ながらの農法で、作付けから収穫までの作業工程を一貫して行う「秋田大学オリジナル米『ほたるひめ』プロジェクト」事業を実施しています。
- 小中学生を対象とした科学教室を開催しています。

●**連絡先**
〒018-3392 北秋田市花園町19-1
北秋田市役所総務部総務課総務班
●**TEL** 0186-62-1111
●**FAX** 0186-63-2586

男鹿なまはげ分校
〈平成25年9月30日開設〉

- 学生力を活用し、子どもたちへの自学自習支援や医学部訪問事業を行い、学力の底上げに取り組んでいます。
- 男鹿市高齢者の健康寿命の延伸を目指し、運動機能の維持向上に取り組んでいます。

●**連絡先**
〒010-0595 男鹿市船川港船川字泉台66-1
男鹿市総務企画部 企画政策課
●**TEL** 0185-24-9126
●**FAX** 0185-23-2424

インフォメーションセンター　Information Center

秋田大学の教育・研究の取り組みや、常設展示として成田為三・南木佳士など著名な卒業生の業績や作品等を展示・紹介。また、学生や教職員による企画展も開催しています。

〈入館案内〉

●開館時間／10:30〜17:00
●開 館 日／平日のみ（入館無料）

インフォメーションセンター外観

オープンスペースの様子

〈主な常設展示〉

成田（なりた） 為三（ためぞう）

秋田県師範学校（教育文化学部の前身）出身で、「浜辺の歌」「秋田県民歌」など、300曲以上の優れた作品を世に残しています。本格的に作曲の勉強をしたのは、秋田県師範学校時代であることが研究により明らかにされています。

南木（なぎ） 佳士（けいし）

秋田大学医学部の第二期生である彼は、長野県佐久総合病院で医師を続けながら、作家活動を行っています。作品には、新設間もない秋田大学医学部を舞台に、医学部在学の4人の主人公が抱える悩みや葛藤などの青春群像を描いた「医学生」や、第100回芥川賞を受賞した「ダイヤモンドダスト」等があります。

松田（まつだ） 解子（ときこ）

秋田県女子師範学校（教育文化学部の前身）出身の小説家で、数多くの作品を世に残しています。1966年、実母をモデルに荒川鉱山に生きた人々を描いた長編『おりん口伝』の連載を始め、この作品で第8回田村俊子賞（1968年）等を受賞しました。

阿部（あべ） 雅龍（まさたつ）

工学資源学部出身の“夢を追う男”冒険家として活躍。大学在学時から自転車での南米縦断やアマゾン川いかだ下りなど、数々の冒険を成し遂げてきました。現在、秋田県出身の南極探検家白瀬矗（しらせのぶ）中尉と同じルートで挑む『単独無補給徒歩・南極点到達』を実行する計画を立てています。

〈主な企画展〉

OBによる講演会

生徒による企画展

サークル企画展

主な課外行事
Main Extracurricular Events

今日歩大祭

秋田大学体育会の伝統行事として行われ親しまれてきた「今日歩大会」が、今日歩の要素を保ちつつ、レクリエーションの要素も加えた「今日歩大祭」としてリニューアルしました。

手形キャンパスをスタートして、太平山リゾート公園まで14.5kmの道のりを歩いて向かいます。

大　学　祭

各学部間の交流、また学生と教職員や一般市民との交流を深めることを目的として毎年実施し、学内外を問わず親しまれている行事です。

全学駅伝競走大会

学生同士や、学生と教職員との交流を深め、スポーツマン精神を養うことを目的に、例年男女合わせて30チームほどが健脚を競っています。応援を含めて全学が熱狂する行事です。

東北地区大学体育大会

東北地区の国・公・私立による体育大会です。

サークルリーダー研修会

課外活動団体のリーダーを中心に日々の活動に必要な知識やAED（自動体外式除細動器）の取扱い方法を修得させるとともに、参加者相互の交流や討論を深めるため、毎年実施しています。

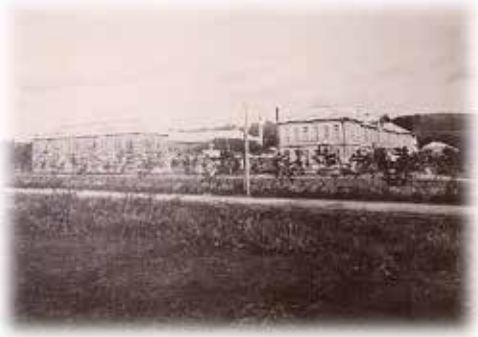
※詳細は、秋田大学ホームページに掲載予定です。

資料編

○沿革
○歴代学長
○運営組織
○教育研究組織
○事務組織
○役職員
○学生の定員・現員
○入学志願者・入学状況
○出身高校所在地別在学状況
○卒業者・修了者数
○学位授与数
○卒業者等就職状況
○平成30年度学生表彰（学業奨励金）受賞者
○外国人留学生数
○外国人研究員等
○国際交流協定校
○公開講座（令和元年度）
○国内機関との連携・協力協定
○役員数
○教職員数
○令和2年度予算
○外部資金受入状況
○令和元年度科学研究費助成事業採択状況
○土地・建物
○各連絡先・所在地一覧
○手形地区施設配置図
○本道地区施設配置図／保戸野地区施設配置図
○アクセス

沿革

Historical Sketch



明治43年(1910)3月
秋田鉱山専門学校(官立)

明治6年(1873)9月
秋田伝習学校

明治7年(1874)5月
秋田太平学校

明治11年(1878)4月
秋田県師範学校

明治11年(1878)12月
秋田師範学校

明治13年(1880)5月
秋田女子師範学校

明治19年(1886)8月
秋田県尋常師範学校

明治31年(1898)4月
秋田県師範学校

明治42年(1909)4月
秋田県女子師範学校

昭和18年(1943)4月
秋田師範学校(官立)

大正13年(1924)3月
秋田県立実業補習学校
教員養成所

昭和10年(1935)4月
秋田県立青年学校
教員養成所

昭和19年(1944)4月
秋田青年師範学校(官立)

●百周年記念館(平成24年10月竣工)

工学資源学部創立100周年を記念し建造
秋田大学の前身である秋田鉱山専門学校の外観を再現

昭和 / 平成 / 令和

20年代 / 40年代 / 50年代 / 60年代 / 元年 / 2年 / 3年 / 4年 / 6年 / 8年 / 10年 / 11年 / 12年 / 14年 / 16年 / 18年 / 19年 / 20年 / 21年 / 22年 / 26年 / 28年 / 30年 / 31年・元年

昭和24年(1949)5月
秋田大学設置

平成11年(1999)
50周年

平成16年(2004)4月
国立大学法人

平成21年(2009)
60周年

令和元年(2019)
70周年

大学院
昭和40年(1965)4月
鉱山学研究科(修士課程)

昭和51年(1976)4月
医学研究科

平成元年(1989)4月
教育学研究科(修士課程)

平成6年(1994)4月
鉱山学研究科(博士課程)

平成14年(2002)4月
改組・工学資源学研究科

平成19年(2007)4月
医学系研究科

教育学研究科
医学系研究科
工学資源学研究科

平成28年(2016)4月1日
新設・国際資源学研究科、
改組・教育学研究科、
理工学研究科

学芸学部
昭和24年(1949)5月
小学校教員養成課程
中学校教員養成課程

改称・教育学部
昭和42年(1967)6月

昭和43年(1968)4月
養護学校教員養成課程

昭和48年(1973)4月
幼稚園教員養成課程

平成3年(1991)4月
情報科学課程

昭和26年(1951)4月
附属幼稚園
附属小学校
附属中学校

昭和47年(1972)4月
附属養護学校

昭和52年(1977)4月
附属教育工学センター

平成4年(1992)4月
改組・附属教育実践研究指導センター

改組・教育文化学部
平成10年(1998)4月
学校教育課程
地域科学課程
国際言語文化課程
人間環境課程

附属幼稚園
附属小学校
附属中学校
附属養護学校
附属教育実践研究指導センター

平成12年(2000)4月
改組・附属教育実践総合センター

平成19年(2007)4月
改称・附属特別支援学校

教育文化学部
学校教育課程
地域科学課程
国際言語文化課程
人間環境課程

附属幼稚園
附属小学校
附属中学校
附属特別支援学校

平成22年(2010)4月
改称・附属教育実践研究支援センター

平成26年(2014)4月1日
新設・国際資源学部、
改組・教育文化学部、
理工学部

国際資源学部
国際資源学科

附属鉱業博物館

教育文化学部
学校教育課程
地域文化学科 — 平成30年(2018)4月 改組・地域文化学科

附属幼稚園
附属小学校
附属中学校
附属特別支援学校
附属教育実践研究支援センター — 平成31年(2019)4月 改組・附属教職高度化センター

医学部
医学科

医学部
医学科
保健学科

附属病院

平成14年(2002)10月
設置・保健学科

昭和46年(1971)4月
附属病院

昭和47年(1972)4月
附属看護学校

平成4年(1992)3月廃止

昭和56年(1981)4月
附属動物実験施設

平成16年(2004)3月廃止

昭和57年(1982)4月
附属実験実習機器センター

平成16年(2004)3月廃止

医学科
保健学科

附属病院
附属病院シミュレーション教育センター
附属地域包括ケア・介護予防研修センター

理工学部
生命科学科
物質科学科
数理・電気電子情報学科
システムデザイン工学科

附属理工学研究センター — 平成30年(2018)4月 改組・附属革新材料研究センター
附属ものづくり創造工学センター — 平成31年(2019)4月 改組・附属クロスオーバー教育創成センター
附属地域防災力研究センター
通信教育講座

鉱山学部
昭和24年(1949)5月

鉱山学科

昭和35年(1960)4月
採鉱学科
鉱山地質学科

冶金燃料学科

昭和30年(1955)4月
冶金学科
燃料化学科

昭和42年(1967)4月
金属材料学科

昭和56年(1981)4月
資源化学工学科

平成2年(1990)4月
改組
資源・素材工学科
物質工学科
情報工学科

鉱山電気学科

昭和34年(1959)4月
鉱山機械学科
鉱山電気学科

昭和39年(1964)4月
機械工学科
電気工学科

昭和48年(1973)4月
電子工学科

昭和41年(1966)4月
鉱山土木学科

昭和45年(1970)4月
土木工学科

昭和52年(1977)4月
生産機械工学科

平成3年(1991)4月
改組
機械工学科
電気電子工学科
土木環境工学科

昭和40年(1965)4月
附属鉱業博物館

昭和25年(1950)4月
附属地下資源開発研究所

昭和42年(1967)4月
改称・附属地下資源研究施設

昭和61年(1986)4月
改組・附属資源地学研究施設

平成8年(1996)5月
改組・附属素材資源システム研究施設

昭和24年(1949)
通信教育講座

改組・工学資源学部
平成10年(1998)4月
地球資源学科
環境物質工学科
材料工学科
情報工学科
機械工学科
電気電子工学科
土木環境工学科

平成20年(2008)4月
環境応用化学科
生命化学科

附属鉱業博物館

附属素材資源システム研究施設

平成18年(2006)4月
改組・附属環境資源学研究センター

平成16年(2004)7月
附属ものづくり創造工学センター

平成18年(2004)1月
附属地域防災力研究センター

通信教育講座

工学資源学部
地球資源学科
環境応用化学科
生命化学科
材料工学科
情報工学科
機械工学科
電気電子工学科
土木環境工学科

附属鉱業博物館
附属環境資源学研究センター
附属ものづくり創造工学センター
附属地域防災力研究センター
通信教育講座

医療技術短期大学部
〈平成元年(1989)4月～平成19年(2007)3月〉

●理学療法学科・作業療法学科
〈平成2年(1990)4月分離増設〉
【看護学科〈平成元年(1989)10月〉】

専攻科
●鉱山学専攻科
〈昭和29年(1954)4月～昭和40年(1965)3月〉
●教育専攻科
〈昭和40年(1965)4月～平成元年(1989)3月〉
●特殊教育特別専攻科
〈昭和55年(1980)4月～平成20年(2008)3月〉

学内共同教育研究施設
●産学連携推進機構〈平成19年(2007)11月〉
【知的財産本部〈平成16年(2004)4月〉+地域共同研究センター〈平成5年(1993)4月〉】
●情報統括センター〈平成27年(2015)4月〉【情報処理センター〈昭和64年(1989)1月〉】
●バイオサイエンス教育・研究サポートセンター〈平成28年(2016)4月〉【バイオサイエンス教育・研究センター〈平成16年(2004)4月〉】
●放射性同位元素センター〈昭和47年(1974)6月〉
●環境安全センター〈平成16年(2004)4月〉
●国際資源学教育研究センター〈平成21年(2009)10月〉
●地方創生センター〈平成28年(2016)4月〉【地域創生センター〈平成23年(2011)4月〉+ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー〈平成13年(2001)5月〉+ベンチャーインキュベーションセンター〈平成24年(2012)10月〉】
●高齢者医療先端研究センター〈平成30年(2018)1月〉

センター
●評価・IRセンター〈平成29年(2017)4月〉
【評価センター〈平成16年(2004)4月〉】
●高等教育グローバルセンター〈平成31年(2019)4月〉
●学生支援総合センター〈平成16年(2004)4月〉
●高大接続センター〈平成29年(2017)4月〉
●教員免許状更新講習推進センター〈平成21(2009)4月〉
※社会貢献推進機構
〈平成16年(2004)4月～平成21年(2009)3月〉

●附属図書館
〈昭和24年(1949)5月〉
●保健管理センター
〈昭和49年(1974)4月〉
●地(知)の拠点推進本部
〈平成28年(2016)4月〉

歴代学長

佐野 秀之助
(昭25.5.6～昭30.12.24)

渡邊 萬次郎
(昭31.3.1～昭41.2.28)

伊藤 泰一
(昭41.3.1～昭44.6.9)

渡邊 武男
(昭46.2.23～昭51.2.22)

九嶋 勝司
(昭51.2.23～昭56.2.22)

梅津 良之
(昭56.2.23～昭61.2.22)

渡部 美種
(昭61.2.23～平3.2.22)

新野 直吉
(平3.2.23～平8.2.22)

徳田 弘
(平8.2.23～平13.2.22)

三浦 亮
(平13.2.23～平20.3.31)

吉村 昇
(平20.4.1～平26.3.31)

澤田 賢一
(平26.4.1～平28.3.1)

山本 文雄
(平28.4.1～)

事務取扱	劒木 亨弘 (昭24.5.31～昭24.7.30)	池田 謙三 (昭24.7.31～昭25.5.5)	五十嵐 勇 (昭30.12.25～昭31.2.29)	藤島 主殿 (昭44.6.10～昭46.2.22)
学長代行	小川 信明 (平28.3.2～平28.3.31)			

運営組織

Management Organization

監　事
（2人）
〈うち、非常勤1人〉
Auditors

経営協議会
（15人）
Management Committee

経営に関する重要事項を審議

- 学長
- 理事（総括・人事・情報・病院経営担当）
- 理事（財務・施設・環境・総務担当）
- 理事（国際情勢分析担当）〈非常勤〉
- 理事（経営分析担当）〈非常勤〉
- 医学部附属病院長
- 副学長（評価・IR担当）
- 学外委員（8人）

役　員　会
（7人）
Board of Directors

経営、教学の両面にわたり、特定の重要事項について、学長の意思決定に先立ち議決

- 学長
- 理事（総括・人事・情報・病院経営担当）
- 理事（研究・地方創生・広報担当）
- 理事（教育・学生・国際担当）
- 理事（財務・施設・環境・総務担当）
- 理事（国際情勢分析担当）〈非常勤〉
- 理事（経営分析担当）〈非常勤〉

教育研究評議会
（22人）
Education and Research Council

教育研究に関する重要事項を審議

- 学長
- 理事（総括・人事・情報・病院経営担当）
- 理事（研究・地方創生・広報担当）
- 理事（教育・学生・国際担当）
- 副学長（評価・IR担当）
- 国際資源学研究科長
- 教育文化学部長
- 医学系研究科長
- 理工学研究科長
- 附属図書館長
- 医学部附属病院長
- 産学連携推進機構長
- 情報統括センター長
- 教育推進主管
- 各学部長等が推薦する当該学部等の教授

学長選考会議
（12人）
President Nomination Committee

- 経営協議会の学外委員で、経営協議会において選出された者（5人）
- 国際資源学研究科長／教育文化学部長／医学系研究科長／理工学研究科長／副学長（評価・IR担当）
- 理事（総括・人事・情報・病院経営担当）／理事（財務・施設・環境・総務担当）

大学運営会議
（13人）

- 学　長
- 理事（総括・人事・情報・病院経営担当）／理事（研究・地方創生・広報担当）
  理事（教育・学生・国際担当）／理事（財務・施設・環境・総務担当）
- 副学長（評価・IR担当）／副学長（産学連携担当）
- 国際資源学研究科長／教育文化学部長／医学系研究科長／理工学研究科長／附属図書館長／医学部附属病院長

教育研究組織

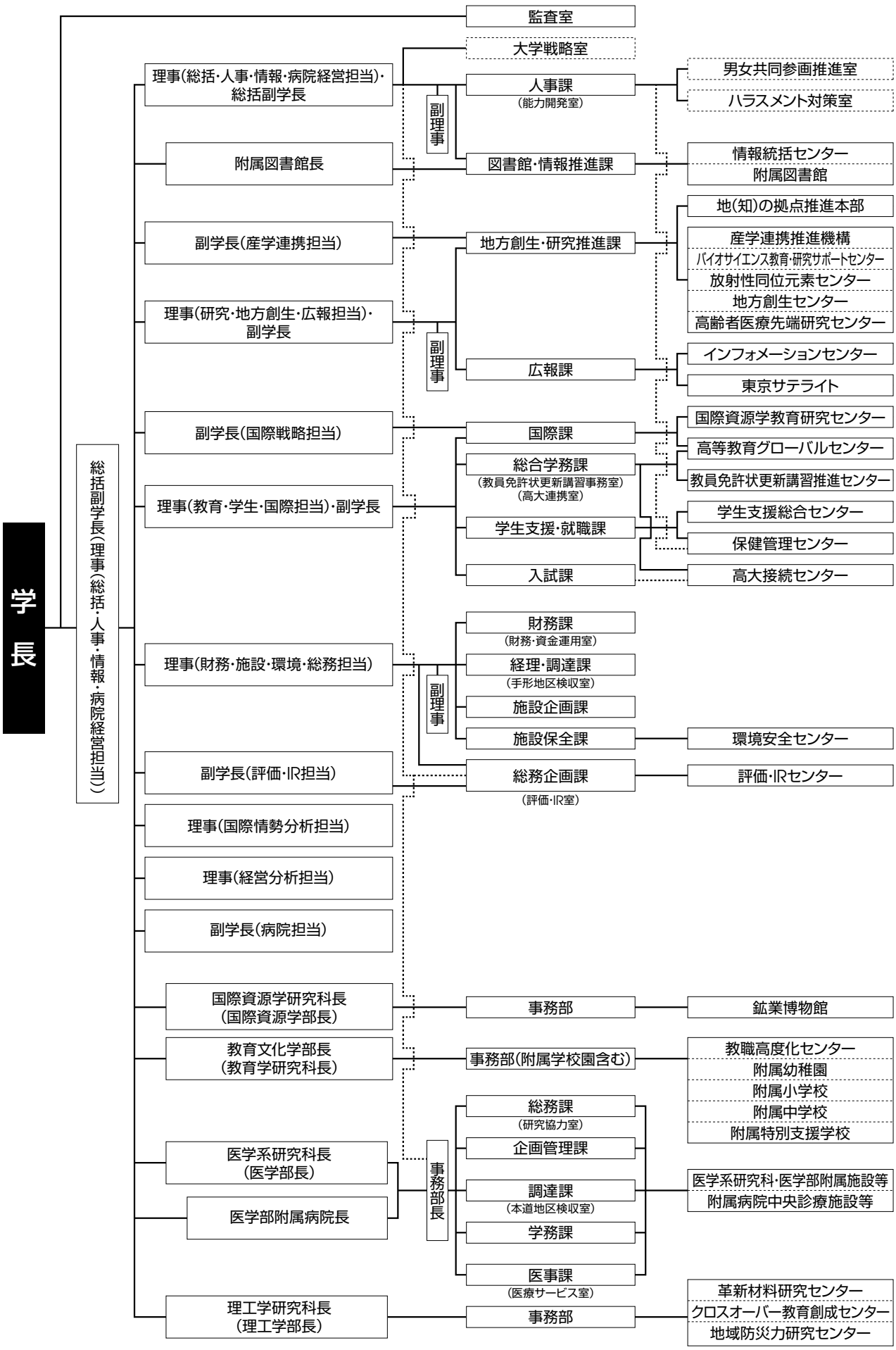
Academic Organization

秋田大学
Akita University

- 学部 Faculties
  - 国際資源学部 Faculty of International Resource Sciences
    - 国際資源学科 — Department of International Resource Sciences
  - 教育文化学部 Faculty of Education and Human Studies
    - 学校教育課程 — Department of School Education
    - 地域文化学科 — Department of Regional Studies and Humanities
    - 附属幼稚園 — Kindergarten
    - 附属小学校 — Elementary School
    - 附属中学校 — Junior High School
    - 附属特別支援学校 — School for Special Needs Education
    - 附属教職高度化センター — Center for Educational Profession Enhancement
  - 医学部 Faculty of Medicine
    - 医学科 — School of Medicine
    - 保健学科 — School of Health Sciences
    - 附属病院 — University Hospital
  - 理工学部 Faculty of Engineering Science
    - 生命科学科 — Department of Life Science
    - 物質科学科 — Department of Materials Science
    - 数理・電気電子情報学科 — Department of Mathematical Science and Electrical-Electronic-Computer Engineering
    - システムデザイン工学科 — Department of Systems Design Engineering
    - 通信教育講座 — Correspondence Education Program
- 大学院 Graduate Schools
  - 国際資源学研究科 Graduate School of International Resource Sciences
    - 博士前期課程 Master's Degree Program
      - 資源地球科学専攻 — Department of Earth Resource Science
      - 資源開発環境学専攻 — Department of Earth Resource Engineering and Environmental Science
    - 博士後期課程 Doctor's Degree Program
      - 資源学専攻 — Department of Geosciences,Geotechnology, and Materials Engineering for Resources
    - 附属鉱業博物館 — Mineral Industry Museum
  - 教育学研究科 Graduate School of Education
    - 専門職学位課程 Professional Degree Program
      - 教職実践専攻 — Program for Teacher Professional Development
    - 修士課程 Master's Degree Program
      - 心理教育実践専攻 — Program for Psychological Education
  - 医学系研究科 Graduate School of Medicine
    - 修士課程 Master's Degree Program
      - 医科学専攻 — Medical Sciences
    - 博士前期課程 Master's Degree Program
      - 保健学専攻 — Health Sciences
    - 博士後期課程 Doctor's Degree Program
      - 保健学専攻 — Health Sciences
    - 博士課程 Doctor's Degree Program
      - 医学専攻 — Medicine
    - 附属地域包括ケア・介護予防研修センター — Center for Aging in Place
  - 理工学研究科 Graduate School of Engineering Science
    - 博士前期課程 Master's Degree Program
      - 生命科学専攻 — Department of Life Science
      - 物質科学専攻 — Department of Materials Science
      - 数理・電気電子情報学専攻 — Department of Mathematical Science and Electrical-Electronic-Computer Engineering
      - システムデザイン工学専攻 — Department of Systems Design Engineering
      - 共同ライフサイクルデザイン工学専攻 — Cooperative Major in Life Cycle Design Engineering
    - 博士後期課程 Doctor's Degree Program
      - 総合理工学専攻 — Department of Integrated Engineering Science
    - 附属革新材料研究センター — Research Center of Advanced Materials for Breakthrough Technology
    - 附属クロスオーバー教育創成センター — Center for Crossover Education
    - 附属地域防災力研究センター — Research Center for Potential Development of Disaster Prevention (PDDP)
- 学内共同教育研究施設 University Common Use Facilities for Education and Research
  - 産学連携推進機構 — Cooperative Research Center
  - 情報統括センター — Center for Information Technology and Management
  - バイオサイエンス教育・研究サポートセンター — Bioscience Education and Research Support Center
  - 放射性同位元素センター — Radioisotope Research Center
  - 環境安全センター — Environmental Research Center
  - 国際資源学教育研究センター — International Center for Research and Education on Mineral and Energy Resources (ICREMER)
  - 地方創生センター — Center for Regional Revitalization in Research and Education
  - 高齢者医療先端研究センター — Advanced Research Center for Geriatric Medicine
- センター Center for Education and Research
  - 評価・IRセンター — Institutional Research and Evaluation Center
  - 高等教育グローバルセンター — Global Center for Higher Education
  - 学生支援総合センター — Student Support Center
  - 高大接続センター — Secondary Education Collaboration Center
  - 教員免許状更新講習推進センター — Center for Teaching License Extension
- 附属図書館 University Library
  - 中央図書館 — Central Library
  - 医学図書館 — Medical Library
- 保健管理センター University Health Center
- 地(知)の拠点推進本部

事務組織

Administrative Organization



役職員

Administrative Staff

令和2年10月1日現在

役員等

学長	山本　文雄
理事(総括・人事・情報・病院経営担当)(兼)総括副学長	近藤　克幸
理事(研究・地方創生・広報担当)(兼)副学長	倉林　徹
理事(教育・学生・国際担当)(兼)副学長	後藤　猛
理事(財務・施設・環境・総務担当)	西田　眞吾
理事(国際情勢分析担当)(非常勤)	豊島　光裕
理事(経営分析担当)(非常勤)	工藤　孝徳
監事	小野　秀人
監事(非常勤)	越山　薫
副学長(評価・IR担当)	長縄　明大
副学長(病院担当)	南谷　佳弘
副学長(国際戦略担当)	藤井　光
副学長(産学連携担当)	島田　洋一

学長補佐

学長補佐(ハラスメント担当)	水戸部　一孝
学長補佐(男女共同参画担当)	山名　裕子
学長補佐(地域協働・COC＋担当)	臼木　智昭
学長補佐(地域産業担当)	田島　克文
学長補佐(地域包括ケア担当)	中村　順子

経営協議会

学長	山本　文雄
理事(総括・人事・情報・病院経営担当)	近藤　克幸
理事(財務・施設・環境・総務担当)	西田　眞吾
理事(国際情勢分析担当)	豊島　光裕
理事(経営分析担当)	工藤　孝徳
医学部附属病院長	南谷　佳弘
副学長(評価・IR担当)	長縄　明大
秋田魁新報社代表取締役社長	佐川　博之
秋田県医師会顧問	小山田　雍
東京国立博物館長	銭谷　眞美
秋田銀行取締役頭取(代表取締役)	新谷　明弘
東北大学名誉教授	吉本　高志
秋田県知事	佐竹　敬久
青森中央学院大学長	佐藤　敬
そーせいグループ株式会社取締役	加賀　邦明

教育研究評議会

学長	山本　文雄
理事(総括・人事・情報・病院経営担当)	近藤　克幸
理事(研究・地方創生・広報担当)	倉林　徹
理事(教育・学生・国際担当)	後藤　猛
副学長(評価・IR担当)	長縄　明大
国際資源学研究科長	藤井　光
教育文化学部長	佐藤　修司
医学系研究科長	尾野　恭一
理工学研究科長	山村　明弘
附属図書館長	今野　和彦
医学部附属病院長	南谷　佳弘
産学連携推進機構長	島田　洋一
情報統括センター長	水戸部　一孝
教育推進主管	上田　晴彦
国際資源学研究科教授	大場　司
国際資源学研究科教授	縄田　浩志
教育文化学部教授	武田　篤
教育文化学部教授	林　良雄
医学部附属病院教授	佐藤　滋
医学系研究科教授	安藤　秀明
理工学研究科教授	寺境　光俊
理工学研究科教授	奥山　栄樹

大学戦略室

室長	近藤　克幸

本部等

副理事(企画調整担当)	西島　学
副理事(地方創生・研究推進担当)(兼)地方創生・研究推進課長	大山　弘
副理事(財務・施設・環境担当)	丹野　史教
監査室長	太田　貞祐

本部等

総務企画課長	藤本　修一
人事課長(兼)能力開発室長	小柳　智子
図書館・情報推進課長	藤井　和明
広報課長	柴田　広実
総合学務課長	柳谷　勉
学生支援・就職課長	大川　卓男
入試課長	藤原　孝
国際課長	吉原　誉夫
財務課長	戸島　隆造
経理・調達課長	原岡　栄喜
施設企画課長	杉山　健一
施設保全課長	橘　紀博

センター・機構等

産学連携推進機構長	島田　洋一
情報統括センター長	水戸部　一孝
バイオサイエンス教育・研究サポートセンター長	大森　泰文
放射性同位元素センター長	尾高　雅文
環境安全センター長	加藤　純雄
国際資源学教育研究センター長	長縄　成実
地方創生センター長	倉林　徹
高齢者医療先端研究センター長	大田　秀隆
評価・IRセンター長	長縄　明大
高等教育グローバルセンター長	後藤　猛
学生支援総合センター長	後藤　猛
高大接続センター長	後藤　猛
教員免許状更新講習推進センター長	森　和彦
保健管理センター所長	伏見　雅人
地(知)の拠点推進本部長	山本　文雄
教育推進主管	上田　晴彦

附属図書館

館長	今野　和彦
医学部分館長	河谷　正仁

国際資源学研究科

研究科長	藤井　光
事務長	高橋　紀夫
附属鉱業博物館長	石山　大三

教育文化学部

学部長	佐藤　修司
事務長	高橋　尚之
附属教職高度化センター長	鎌田　信
附属幼稚園長	宇野　力
附属小学校長	外池　智
附属中学校長	原　義彦
附属特別支援学校長	藤井　慶博

医学系研究科

研究科長	尾野　恭一
附属病院長	南谷　佳弘
附属地域包括ケア・介護予防研修センター長	尾野　恭一
事務部長	富田　有一
総務課長	斎藤　建一
企画管理課長	小林　一俊
調達課長	針金　誠悦
学務課長	佐々木　繁男
医事課長	田村　悟

理工学研究科

研究科長	山村　明弘
事務長	福島　慎一
附属革新材料研究センター長	吉村　哲
附属クロスオーバー教育創成センター長	足立　高弘
附属地域防災力研究センター長	徳重　英信

学生の定員・現員

〈学　部〉

令和2年5月1日現在

学部	学科・課程	入学定員	収容定員	現員 1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
国際資源学部	国際資源学科	120	480	137	136	124	112			509
	小　計	120	480	137	136	124	112			509
教育文化学部	学校教育課程	110	440	113	112	121	114			460
	地域文化学科	100	400	102	105	106	109			422
	小　計	210	840	215	217	227	223			882
医学部	医学科	〈5〉124	769	125	136	136	131	121	128	777
	保健学科	(14)106	452	108	110	108	128			454
	小　計	〈5〉(14)230	1,221	233	246	244	259	121	128	1,231
理工学部	生命科学科	45	180	47	51	44	44			186
	物質科学科	110	440	114	114	149	99			476
	数理・電気電子情報学科	120	480	134	131	154	116			535
	システムデザイン工学科	120	480	130	135	155	130			550
	各学科共通	12	24							
	小　計	(12)395	1,604	425	431	502	389			1,747
工学資源学部	地球資源学科	※2	※2							
	環境物質工学科	※1								
	環境応用化学科									
	生命化学科									
	材料工学科									
	情報工学科						1			1
	機械工学科									
	電気電子工学科									
	土木環境工学科									
	各学科共通									
	小　計						1			1
合　計		〈5〉(26)955	4,145	1,010	1,030	1,097	984	121	128	4,370

【注】
※1：平成20年度から学生募集停止
※2：平成26年度から学生募集停止

※(　)内の数は3年次編入学定員を表し、外数である。　※〈　〉内の数は2年次編入学定員を表し、外数である。

〈大学院〉

令和2年5月1日現在

研究科	専　攻	入学定員	収容定員	現員 博士前期課程 1年次	2年次	計
国際資源学研究科	資源地球科学専攻	17	34	19	16	35
	資源開発環境学専攻	23	46	23	19	42
	小　計	40	80	42	35	77
	専　攻	**入学定員**	**収容定員**	**博士後期課程 1年次**	**2年次 3年次**	**計**
	資源学専攻	10	30	11	12 11	34
計		50	110			111

研究科	専　攻	入学定員	収容定員	現員 専門職学位課程 1年次	2年次	計
教育学研究科	教職実践専攻	20	40	20	5	25
	専　攻	**入学定員**	**収容定員**	**現員 修士課程 1年次**	**2年次**	**計**
	心理教育実践専攻	6	12	3	7	10
計		26	52			35

研究科	専　攻	入学定員	収容定員	現員 修士課程 1年次	2年次	計
医学系研究科	医科学専攻	5	10	0	0	0
	専　攻	**入学定員**	**収容定員**	**博士前期課程 1年次**	**2年次**	**計**
	保健学専攻	12	24	16	17	33
	専　攻	**入学定員**	**収容定員**	**博士後期課程 1年次**	**2年次 3年次**	**計**
	保健学専攻	3	9	2	4 4	10
	専　攻	**入学定員**	**収容定員**	**博　士　課　程 1年次**	**2年次 3年次 4年次**	**計**
	医学専攻	30	120	34	33 24 71	162
計		50	163			205

研究科	専　攻	入学定員	収容定員	現員 博士前期課程 1年次	2年次	計
理工学研究科	生命科学専攻	15	30	32	19	51
	物質科学専攻	42	84	37	39	76
	数理・電気電子情報学専攻	45	90	53	59	112
	システムデザイン工学専攻	36	72	37	33	70
	共同ライフサイクルデザイン工学専攻	12	24	12	16	28
	小　計	150	300	171	166	337
	専　攻	**入学定員**	**収容定員**	**博士後期課程 1年次**	**2年次 3年次**	**計**
	総合理工学専攻	10	30	12	10 13	35
計		160	330			372

研究科	専　攻	入学定員	収容定員	現員 博士前期課程 1年次	2年次	計
工学資源学研究科	地球資源学専攻	※2	※2			
	環境物質工学専攻	※1				
	環境応用化学専攻					
	生命科学専攻					
	材料工学専攻					
	情報工学専攻					
	機械工学専攻					
	電気電子工学専攻					
	土木環境工学専攻					
	共同ライフサイクルデザイン工学専攻					
	小　計					
	専　攻	**入学定員**	**収容定員**	**博士後期課程 1年次**	**2年次 3年次**	**計**
	資源学専攻	※2				
	生命科学専攻					
	機能物質工学専攻					
	生産・建設工学専攻					
	電気電子情報システム工学専攻				2	2
	小　計				2	2
計						2
合　計		286	655			725

【注】
※1：平成24年度から学生募集停止
※2：平成28年度から学生募集停止

入学志願者・入学状況

〈学　部〉

令和2年度

区　分	入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
		男	女	計	男	女	計	
国際資源学部	120	335	124	459	87	39	126	3.83
教育文化学部	210	367	545	912	80	133	213	4.34
医学部	230	606	663	1269	99	132	231	5.52
理工学部	395	1472	312	1784	349	56	405	4.52

※外国人留学生を含まない(但し、国際資源学部と理工学部の私費外国人留学生は含む)。編入生を含まない。

〈大学院〉

令和2年度

区　分			入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
				男	女	計	男	女	計	
国際資源学研究科(博士前期課程)			40	36	12	48	30	9	39	1.20
国際資源学研究科(博士後期課程)			10	5	2	7	4	2	6	0.70
教育学研究科(専門職学位課程)			20	16	8	24	13	7	20	1.20
教育学研究科(修士課程)			6	3	5	8	1	2	3	1.33
医学系研究科	(修士課程)	医科学専攻	5	1	0	1	0	0	0	0.20
	(博士前期課程)	保健学専攻	12	8	11	19	6	10	16	1.58
	(博士後期課程)	保健学専攻	3	2	0	2	2	0	2	0.67
	(博士課程)	医学専攻	30	25	9	34	25	9	34	1.13
理工学研究科(博士前期課程)			150	157	32	189	135	30	165	1.26
理工学研究科(博士後期課程)			10	6	1	7	6	1	7	0.70

※国費外国人留学生、外国人留学生特別選抜を除く(但し、国際資源学研究科において、国費外国人留学生、外国人留学生特別選抜を含む)。

出身高校所在地別在学状況

〈学生総数(学部学生)〉

令和2年5月1日現在

		人数	%
北海道		117	2.8%
東北 2,485 (59.0%)	青森	182	4.3%
	岩手	276	6.6%
	秋田	1,600	38.0%
	宮城	169	4.0%
	山形	169	4.0%
	福島	89	2.1%
関東		913	21.7%
中部		548	13.0%
近畿		89	2.1%
中国		17	0.4%
四国		6	0.1%
九州		38	0.9%
学生総数		4,213	

※学生総数は、国内の高校出身者の合計であり、留学生及び編入学生等は含まない。

〈医学部〉

令和2年5月1日現在

		人数	%
北海道		31	2.6%
東北 627 (52.1%)	青森	34	2.8%
	岩手	80	6.7%
	秋田	422	35.1%
	宮城	52	4.3%
	山形	33	2.7%
	福島	6	0.5%
関東		375	31.2%
中部		124	10.3%
近畿		24	2.0%
中国		4	0.3%
四国		2	0.2%
九州		15	1.3%
計		1,202	

〈国際資源学部〉

令和2年5月1日現在

		人数	%
北海道		16	3.2%
東北 235 (47.4%)	青森	27	5.5%
	岩手	31	6.3%
	秋田	112	22.6%
	宮城	25	5.0%
	山形	16	3.2%
	福島	24	4.8%
関東		123	24.8%
中部		82	16.5%
近畿		27	5.5%
中国		3	0.6%
四国		1	0.2%
九州		9	1.8%
計		496	

〈理工学部〉(工学資源学部を含む)

令和2年5月1日現在

		人数	%
北海道		55	3.3%
東北 879 (53.3%)	青森	82	5.0%
	岩手	120	7.3%
	秋田	503	30.5%
	宮城	54	3.3%
	山形	75	4.6%
	福島	45	2.7%
関東		350	21.2%
中部		306	18.6%
近畿		34	2.1%
中国		10	0.6%
四国		2	0.1%
九州		12	0.7%
計		1,648	

〈教育文化学部〉

令和2年5月1日現在

		人数	%
北海道		15	1.7%
東北 744 (85.8%)	青森	39	4.5%
	岩手	45	5.2%
	秋田	563	64.9%
	宮城	38	4.4%
	山形	45	5.2%
	福島	14	1.6%
関東		65	7.5%
中部		36	4.2%
近畿		4	0.5%
中国		0	0.0%
四国		1	0.1%
九州		2	0.2%
計		867	

卒業者・修了者数

〈学部・大学院・専攻科〉

学部 区分	学部 元年度	学部 累計	大学院 区分	大学院 元年度	大学院 累計	専攻科 区分	専攻科 累計
国際資源学部	112	318	国際資源学研究科（博士前期課程）	54	112		
			国際資源学研究科（博士後期課程）	8	11		
教育文化学部	232	5,416	教育学研究科（修士課程）	4	899	教育専攻科	78
教育学部		14,519	教育学研究科（専門職学位課程）	27	75	特殊教育特別専攻科	212
医学部	230	6,021	医学系研究科（修士課程）	2	66		
			医学系研究科（博士前期課程）	9	112		
			医学系研究科（博士後期課程）	4	33		
			医学系研究科（博士課程）	20	235		
			医学研究科		791		
理工学部	397	1,151	理工学研究科（博士前期課程）	134	393	鉱山学専攻科	58
			理工学研究科（博士後期課程）	9	11		
工学資源学部	4	7,475	工学資源学研究科（博士前期課程）	0	2,022		
			工学資源学研究科（博士後期課程）	1	150		
鉱山学部		14,522	鉱山学研究科（修士課程）		1,270		
			鉱山学研究科（博士前期課程）		1,012		
			鉱山学研究科（博士後期課程）		123		
計	975	49,422	計	272	7,315	計	348

【注】※鉱山学専攻科…昭和40年3月廃止　※教育専攻科…平成元年3月廃止　※鉱山学研究科（修士課程）…平成9年3月廃止
※教育学部…平成10年4月教育文化学部に改組・改称　※鉱山学部…平成10年4月工学資源学部に改組・改称
※鉱山学研究科…平成14年4月工学資源学研究科に改組・改称　※特殊教育特別専攻科…平成20年3月廃止
※医学研究科…平成19年4月医学系研究科に改組・改称　※工学資源学部…平成26年4月理工学部に改組・改称
※工学資源学研究科…平成28年4月理工学研究科に改組・改称

〈医療技術短期大学部〉

区分	看護学科	理学療法学科	作業療法学科
累計	1,015	246	254

【注】※医療技術短期大学部…平成19年3月廃止

学位授与数

令和2年5月1日現在

区分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	累計
国際資源学研究科	修士（資源学）					4	8	4	16
	修士（理学）					8	12	17	37
	修士（工学）					12	14	33	59
	博士（資源学）							1	1
	博士（理学）							6	6
	博士（工学）						3	1	4
	小計					24	37	62	123
教育学研究科	修士（教育学）	34	24	31	28	7	4	4	899
	教職修士（専門職）				4	24	20	27	75
	小計	34	24	31	32	31	24	31	974
医学系研究科	修士（医科学）	0	0	3	1	2	1	2	29
	修士（看護学）	6	6	4	7	4	7	5	74
	修士（リハビリテーション科学）	7	8	7	4	7	5	4	75
	博士（保健学）（課程）	3	4	3	5	3	4	4	33
	博士（医学）（課程）	24	25	23	27	35	28	20	237
	博士（医学）（論文）	4	3	4	0	2	4	3	36
	小計	44	46	44	44	53	49	38	484
医学研究科	博士（医学）（課程）	3							806
	博士（医学）（論文）	0							574
	小計	3							1,380
理工学研究科	修士（理学）				1	9	20	21	51
	修士（理工学）					26	29	35	90
	修士（工学）					86	88	78	252
	博士（理学）					1	0	2	3
	博士（理工学）							3	3
	博士（工学）						1	4	5
	小計				1	122	138	143	404
工学資源学研究科	修士（工学）	134	101	145	136	6	1	0	1,927
	修士（資源学）	3	6	6	14	1	0	0	48
	修士（理学）	8	13	11	15				47
	博士（工学）（課程）	10	8	7	9	9	8	1	138
	博士（資源学）（課程）	0	1	0	2	1	3	0	9
	博士（理学）（課程）			1	2				3
	博士（工学）（論文）	2	0	1	0	1	0	0	12
	博士（資源学）（論文）	0	0	0	0	0	0	0	1
	博士（理学）（論文）			0	0	0	0	0	0
	小計	157	129	171	178	18	12	1	2,185
鉱山学研究科	修士（工学）								2,252
	修士（資源学）								30
	博士（工学）（課程）								117
	博士（資源学）（課程）								6
	博士（工学）（論文）								31
	小計								2,436
合計		238	199	246	255	248	260	275	7,986

卒業者等就職状況

令和2年5月1日現在（中途卒を含む）

区分		卒業者数	進学者数	就職者数 県内	就職者数 県外	産業別就職者数 農林・水産業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス等	情報通信業	運輸・郵便業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	学術研究・専門・技術サービス業	宿泊・飲食業	医療・福祉	学校教育 教員 幼稚園	小学校	中学校	高等学校	高専・大学等	特別支援学校	その他（教員）	教員の計	教員以外	教育学習支援業	複合サービス業	サービス業	公務員 国家	地方	公務員の計	その他	その他	未就職者
学部	国際資源学部	112	39	64	4	0	6	13	17	4	2	6	2	1	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	3	1	9	0
	教育文化学部	232	14	210	108	0	0	2	5	0	18	7	10	9	2	2	2	21	4	46	13	6	0	8	0	77	2	1	2	8	13	29	42	0	8	0
	医学部	230	1	224	94	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	223	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0
	理工学部	397	166	215	36	1	0	23	65	6	31	11	4	2	2	17	0	3	0	0	0	4	0	0	0	4	1	0	1	7	6	30	36	1	15	1
	工学資源学部	4	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	小計	975	220	715	242	1	6	40	87	10	52	24	16	12	5	26	2	247	4	46	13	10	0	8	0	81	3	1	3	16	20	61	81	2	39	1
大学院	国際資源学研究科	62	9	49	2	0	15	5	14	4	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	4	0	4	0
	教育学研究科	31	0	31	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	7	8	7	0	5	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	医学系研究科	35	0	35	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	理工学研究科	143	2	138	9	0	1	5	98	4	10	2	1	0	0	10	0	1	0	0	0	1	1	0	0	2	1	0	0	2	1	0	1	0	2	1
	工学資源学研究科	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	272	10	254	70	0	16	10	112	8	10	2	4	0	0	13	0	37	0	7	8	8	5	5	0	33	1	0	0	3	4	1	5	0	6	2
合計		1247	231	969	312	1	22	50	199	18	62	26	20	12	5	39	2	284	4	53	21	18	5	13	0	114	4	1	3	19	24	62	86	2	45	2

平成30年度学生表彰（学業奨励金）受賞者

学生表彰（学業奨励金）被表彰者一覧

学部	学科・課程・コース等	30年度学年	氏名
国際資源学部	資源政策コース	2	佐藤友香
	資源地球科学コース	2	樗沢育
教育文化学部	地域文化学科	1	藤原鈴
	地域文化学科人間文化コース	2	松本砂亜耶
	地域文化学科人間文化コース	3	大木美駒
医学部	医学科	3	星野将志
	医学科	3	山田花那
	保健学科看護学専攻	3	湯川志桜里
	保健学科作業療法学専攻	3	後藤あすみ
理工学部	生命科学科 生命科学コース	2	福島左耶華
	物質科学科 応用化学コース	2	福田珠美
	数理・電気電子情報学科 数理科学コース	3	古木大雅
	システムデザイン工学科 機械工学コース	3	山崎裕太
	システムデザイン工学科 創造生産工学コース	2	沼田若葉
	システムデザイン工学科 土木環境工学コース	2	川村一暁

令和元年度学生表彰等受賞者

学生表彰被表彰者一覧〈学術研究活動関係〉

賞	氏名	所属	業績内容	指導教員
優秀賞	湊　隆文	医学部医学科 5年次	・"International Journal of Environmental Research and Public Health"（IF=2.468）において、筆頭著者として「Maternal Undernutrition and Breast Milk Macronutrient Content Are Not Associated with Weight in Breastfed Infants at 1 and 3 Months after Delivery」というタイトルの論文が掲載された。	野村　恭子
優秀賞	河谷昌泰	医学部医学科 6年次	・「自律神経科学における神経回路、および薬理学研究」についてまとめた研究成果が、国際雑誌"Peptides"（IF=2.851）にタイトル名「Glucagon-like peptide-1（GLP-1）action in the mouse area postrema neurons」として掲載された（2018,vol.107,68-74）ことの功績等により、2019年度JASSO優秀学生顕彰において、学術分野での大賞（4名）を受賞した。	尾野　恭一
奨励賞	白井聡馬	医学部医学科 3年次	・「刈込鋏が頸部から刺入した穿通性頭部外傷により死亡した1剖検例」と題した論文が法医学の分野では由緒ある雑誌として確固たる地位を占めている「法医学の実際と研究」に掲載された。	美作 宗太郎
奨励賞	竹内　峻	医学部医学科 4年次	・平成31年3月に開催された第124回日本解剖学会総会全国学術集会の学生セッションにおいて、「心房における刺激伝導系の探索」というタイトルで研究発表を行い、優秀発表賞を受賞した。	板東　良雄
奨励賞	東海林　陸	理工学研究科 博士前期課程 物質科学専攻 1年次	・令和元年5月に開催された第68回高分子学会年次大会において、「超強酸を用いたイサチンとジフェニルエーテルの完全非等モル重縮合」と題したポスター発表を行い、優秀ポスター賞を受賞した。	寺境　光俊
奨励賞	佐藤龍士	理工学研究科 博士前期課程 物質科学専攻 1年次	・令和元年9月に開催された日本鋳造工学会第174回全国講演大会において、「過共晶高クロム白鋳鉄の強度に及ぼす炭化物形態の影響」と題した研究発表を行い、学生優秀講演賞を受賞した。	後藤　育壮
奨励賞	白井康太	理工学研究科 博士前期課程 物質科学専攻 1年次	・令和元年9月に開催された日本鋳造工学会第174回全国講演大会において、「鉄鋼材料の耐溶損性に及ぼすアルミニウム合金溶湯組成の影響」と題した研究発表を行い、学生優秀講演賞を受賞した。	後藤　育壮
奨励賞	瀬﨑勇斗	理工学研究科 博士前期課程 物質科学専攻 2年次	・令和元年9月に開催された資源・素材学会主催の資源・素材2019のポスターセッションにおいて、「芳香族第一級アミンを抽出剤とした触媒浸出模擬溶液からのRh（Ⅲ）選択抽出」と題したポスター発表を行い、若手ポスター賞を受賞した。	寺境　光俊
奨励賞	新井達也	理工学研究科 博士前期課程 数理・電気電子情報学専攻 2年次	・令和元年9月に開催されたICISIP2019（The 7th IIAE International Conference on Intelligent Systems and Image Processing 2019）において、「Method for Measuring the Separation between Transmission Lines and Forests Using UAV Data」と題した発表を行い、ICISIP2019 Best Paper Awardを受賞した。 ・その他学会発表を7件（予定含む）行った。 ・研究成果として、現在1件の特許を出願中である。	景山　陽一
奨励賞	鈴木海里	理工学研究科 博士前期課程 数理・電気電子情報学専攻 2年次	・平成30年6月に開催された日本素材物性学会平成30年度（第28回）年会において、「鋭敏色法を用いた厚さが変化するガラス板中のLamb波の観測」と題した研究発表を行い、優秀論文発表賞を受賞した。 ・「Sensitive Tint Visualization of Mode Variation of Lamb wave in the Gently Varying Thickness of Glass Plate」と題した論文が日本画像学会誌に掲載されたほか、日本音響学会誌に「鋭敏色法を用いたガラス板中のLamb波の分布の検討」と題した論文を投稿し、採録通知を受けている。 ・「有限要素法および鋭敏色法を用いた厚さが緩やかに変化するガラス板中のLamb波の伝搬解析」と題した論文が日本素材物性学会誌に掲載されたほか、その論文が同学会若手論文賞を受賞した。 ・その他学会発表を4件行った。	今野　和彦
奨励賞	早瀬仁丈暢	理工学研究科 博士前期課程 数理・電気電子情報学専攻 2年次	・令和元年5月に開催された第17回ホスト-ゲスト・超分子化学シンポジウムにおいて、「柔粘性結晶ノナデカンにおける分子の回転挙動」と題したポスター発表を行い、優秀ポスター賞を受賞した。	倉林　徹
奨励賞	中村悦郎	理工学研究科 博士後期課程 総合理工学専攻 1年次	・令和元年9月に開催されたICISIP2019（The 7th IIAE International Conference on Intelligent Systems and Image Processing 2019）において、「Improvement of Lip Extraction Method Using Interpolation Method」と題した発表を行い、ICISIP2019 Best Presentation Awardを受賞した。 ・その他国際会議での発表を2件（予定含む）、学会発表を9件行った。 ・研究成果として、現在2件の特許を出願中である。	景山　陽一
奨励賞	松井　解	理工学研究科 博士後期課程 総合理工学専攻 1年次	・令和元年9月に開催されたICISIP2019（The 7th IIAE International Conference on Intelligent Systems and Image Processing 2019）において、「Fuzzy C-Means with Stepwise Level Slice Processing for Water Quality Analysis in Lake Hachirokol」と題した発表を行い、ICISIP2019 Best Student Paper Awardを受賞した。 ・その他国際会議での発表を2件、学会発表を11件（予定含む）行った。	景山　陽一

学生表彰被表彰者一覧〈課外活動関係〉

賞	氏名	所属	種目／成績		大会名	所属団体	顧問教員
優秀賞（個人）	広田有紀	医学部 医学科6年次	女子800m	第2位	第88回日本学生陸上競技対校選手権大会	陸上競技部 医学部女子陸上競技部	松下　翔一 山田 武千代
優秀賞（個人）	熊谷　魁	教育文化学部 学校教育課程1年次	男子U20 60mジュニアハードル	第3位	2020日本室内陸上競技大阪大会	陸上競技部	松下　翔一
奨励賞（団体）	男子ハンドボール部		男子の部優勝		第71回日本ハンドボール選手権大会 東北ステージ兼第56回東北総合ハンドボール選手権大会		佐藤　靖
奨励賞（団体）	医学部女子バドミントン部		バドミントン部門優勝		第53回全日本医科学生体育大会王座決定戦		南谷　佳弘
奨励賞（個人）	桜庭美紅	教育文化学部 学校教育課程4年次	女子1500m	第1位	第41回北日本学生陸上競技対校選手権大会	陸上競技部	松下　翔一
奨励賞（個人）	渡邉優樹	理工学部 数理・電気電子情報学科 3年次	男子4×100mリレー	第1位	第48回東北学生陸上競技選手権大会	陸上競技部	松下　翔一
	大久保直樹	医学部 医学科1年次					
	中沢駿介	理工学部 システムデザイン工学科2年次					
	出口颯真	教育文化学部 学校教育課程2年次					
奨励賞（個人）	藤田憲将	教育文化学部 学校教育課程4年次	男子 ハンドボール	ベスト7	第54回東北学生ハンドボール春季リーグ戦（1部リーグ） 第64回東北学生ハンドボール秋季リーグ戦（1部リーグ）	男子 ハンドボール部	佐藤　靖
奨励賞（個人）	石亀貴雅	教育文化学部 学校教育課程3年次	男子 ハンドボール	ベスト7	第64回東北学生ハンドボール秋季リーグ戦（1部リーグ）	男子 ハンドボール部	佐藤　靖
奨励賞（個人）	高橋友朗	理工学部 数理・電気電子情報学科 3年次	男子 ハンドボール	ベスト7	第64回東北学生ハンドボール秋季リーグ戦（1部リーグ）	男子 ハンドボール部	佐藤　靖
奨励賞（個人）	一戸歩生	教育文化学部 学校教育課程3年次	男子60kg級	優勝	第38回東北学生柔道体重別選手権大会	柔道部	三戸　範之
奨励賞（個人）	佐藤永希	教育文化学部 学校教育課程2年次	男子90kg級	優勝	第38回東北学生柔道体重別選手権大会	柔道部	三戸　範之
奨励賞（個人）	畠山　晃	理工学部 物質科学科4年次	男子個人形	第3位	第41回全国国公立大学空手道選手権大会	空手道部	島田　洋一
奨励賞（個人）	渡辺雄也	医学部 医学科6年次	弓道部門団体戦	最多的中賞	第53回全日本医科学生体育大会王座決定戦	医学部弓道部	尾野　恭一

副学長表彰被表彰者一覧〈教育活動関係〉

賞	氏名	所属	業績内容	指導教員
個人表彰	不破勢登	国際資源学部 資源政策コース 3年次	・3年次から The ALL ROOMs学生スタッフとして活躍しているが、物事を論理的に考え、建設的に物事を進めることができる優秀な人材である。 また、現在のTOEICの成績は885点である。	後藤　猛
個人表彰	石塚光里	教育文化学部 地域文化学科3年次	・2年次から The ALL ROOMs学生スタッフとして活躍しており、イングリッシュマラソン・海外短期研修等を経て、1年間フィンランドに交換留学をして、その知識・経験を利用者に伝えている。 また、現在のTOEICの成績は880点である。	後藤　猛

副学長表彰被表彰者一覧〈課外活動関係〉

賞	氏名	所属	種目／成績	大会名	所属団体	顧問教員
団体表彰	弓道部		団体優勝	第59回東北地区秋季学生弓道大会Ⅳ部リーグ戦		水戸部 一孝
団体表彰	女子ハンドボール部		女子の部Aリーグ　第4位	第54回東北学生ハンドボール春季リーグ戦		佐藤　靖
			女子の部Aリーグ　第4位	第64回東北学生ハンドボール秋季リーグ戦		
団体表彰	柔道部		第2位	第21回東北学生柔道体重別団体優勝大会		三戸　範之
団体表彰	水泳部		男子総合第3位	第34回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会		伊藤　豊
			女子総合第3位	第34回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会		
団体表彰	医学部女子陸上競技部		女子総合第1位 女子トラック第1位	第62回東日本医科学生総合体育大会陸上競技		山田 武千代
団体表彰	医学部男子ソフトテニス部		男子団体優勝	第62回東日本医科学生総合体育大会ソフトテニス競技		飯島　克則
団体表彰	医学部剣道部		女子団体戦優勝	第62回東日本医科学生総合体育大会剣道競技		羽渕　友則
団体表彰	医学部弓道部		団体戦優勝	第62回東日本医科学生総合体育大会弓道競技		尾野　恭一

賞	氏名	所属	種目／成績		大会名	所属団体	顧問教員
個人表彰	村川龍生	理工学部 数理・電気電子情報学科 1年次	個人戦C級	第3位	第100回東北学生将棋大会	将棋部	佐々木 雅子
個人表彰	金ハンソル	理工学部 システムデザイン工学科 3年次	個人戦	第3位	第49回東北地区秋季女子学生弓道大会Ⅱ部リーグ戦	弓道部	水戸部 一孝
個人表彰	小河原海	理工学部 数理・電気電子情報学科 3年次	個人戦	準優勝	第59回東北地区秋季学生弓道大会Ⅳ部リーグ戦	弓道部	水戸部 一孝
個人表彰	西舘優翔	理工学部 数理・電気電子情報学科 1年次	個人戦	第3位	第59回東北地区秋季学生弓道大会Ⅳ部リーグ戦	弓道部	水戸部 一孝
個人表彰	丹智広	教育文化学部 学校教育課程3年次	男子60kg級	第3位	第38回東北学生柔道体重別選手権大会	柔道部	三戸　範之
個人表彰	髙橋怜夢	教育文化学部 学校教育課程1年次	男子100kg超級	第3位	第38回東北学生柔道体重別選手権大会	柔道部	三戸　範之
個人表彰	村山洸志	理工学部 数理・電気電子情報学科 2年次	男子100m背泳ぎ	第1位	第34回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会	水泳部	伊藤　豊
個人表彰	中島大河	医学部 医学科1年次	男子200mバタフライ	第2位	第34回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会	水泳部	伊藤　豊
個人表彰	福原一輝	理工学部 システムデザイン工学科 4年次	男子100m平泳ぎ	第3位	第70回東北地区大学体育大会水泳の部	水泳部	伊藤　豊
個人表彰	新井ゆう	教育文化学部 地域文化学科2年次	女子200m背泳ぎ	第3位	第12回北部学生選手権水泳競技大会	水泳部	伊藤　豊
個人表彰	真壁風子	医学部 保健学科2年次	女子200m自由形	第3位	第34回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会	水泳部	伊藤　豊
			女子400m自由形	第3位			
個人表彰	村山洸志	理工学部 数理・電気電子情報学科 2年次	男子4×100m メドレーリレー	第2位	第34回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会	水泳部	伊藤　豊
	福原一輝	理工学部 システムデザイン工学科 4年次					
	門井諒平	医学部 医学科2年次					
	安富健	医学部 医学科2年次					
個人表彰	村山洸志	理工学部 数理・電気電子情報学科 2年次	男子4×200m フリーリレー	第3位	第34回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会	水泳部	伊藤　豊
	門井諒平	医学部 医学科2年次					
	安富健	医学部 医学科2年次					
	鈴木太悟	国際資源学部 資源開発環境コース 3年次					
個人表彰	真壁風子	医学部 保健学科2年次	女子4×50mフリーリレー 女子4×100mフリーリレー	第3位	第34回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会	水泳部	伊藤　豊
	新井ゆう	教育文化学部 地域文化学科2年次					
	瀬戸秋香	医学部 医学科3年次					
	加藤礼奈	教育文化学部 学校教育課程3年次					
個人表彰	亀山雛子	医学部 医学科5年次	女子100m	第1位	第62回東日本医科学生総合体育大会陸上競技	医学部女子陸上競技部	山田 武千代
			女子200m	第1位			
個人表彰	亀山雛子	医学部 医学科5年次	女子4×400m リレー	第1位	第62回東日本医科学生総合体育大会陸上競技	医学部女子陸上競技部	山田 武千代
	加藤珠恵	医学部 医学科5年次					
	安藤賀子	医学部 医学科4年次					
	広田有紀	医学部 医学科6年次					
個人表彰	木村早希	医学部 医学科5年次	女子個人戦	優勝	第62回東日本医科学生総合体育大会剣道競技	医学部剣道部	羽渕　友則

外国人留学生数

令和2年5月1日現在

国名	学部																		小計					
	学部国別計	国際資源学部				教育文化学部				医学部				理工学部										
		正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規			正規		非正規			
		国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費		国費	私費	国費	私費		
中国	48		2 (1)				5	1	2		2				35 (3)		1 (1)			44 (4)	1	3 (1)		
マレーシア	25		7 (4)				1 (1)								17 (6)					25 (11)				
ベトナム	19										1 (1)				18 (9)					19 (10)				
韓国	6														6 (2)					6 (2)				
モンゴル	6		3 (1)						2 (2)						1 (1)					4 (2)		2 (2)		
ザンビア	0																							
インドネシア	3				3 (3)																	3 (3)		
ボツワナ	0																							
アフガニスタン	0																							
ケニア	0																							
ミャンマー	1							1 (1)													1 (1)			
タイ	1													1					1					
フィリピン	1																1					1		
パプアニューギニア	0																							
台湾	1																1					1		
セルビア	0																							
モザンビーク	0																							
ラオス	0																							
ペルー	0																							
アメリカ	1										1									1				
イタリア	0																							
イスラエル	2							1 (1)	1												1 (1)	1		
ガーナ	0																							
ブルキナファソ	0																							
計	114		12 (6)		3 (3)		6 (1)	3 (2)	5 (2)		4 (1)			1	77 (21)		3 (1)	1	99 (29)	3 (2)	11 (6)			

国名	大学院																		小計					
	大学院国別計	国際資源学研究科				教育学研究科				医学系研究科				理工学研究科										
		正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規			正規		非正規			
		国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費		国費	私費	国費	私費		
中国	25		1												24 (1)					25 (1)				
マレーシア	4		2 (1)												2 (1)					4 (2)				
ベトナム	4	1													3 (1)				1	3 (1)			1	22 (11)	23
韓国	1	1																	1				1	6 (2)	7
モンゴル	2	1	1 (1)																1	1 (1)			1	5 (3)	6
ザンビア	2		1											1					1	1			1	1	2
インドネシア	13	8 (1)	5 (1)																8 (1)	5 (1)			8 (1)	5 (1)	13
ボツワナ	8	7 (5)	1																7 (5)	1			7 (5)	1	8
アフガニスタン	2		1	1																1	1			1	1
ケニア	1		1																	1				1	1
ミャンマー	1		1																	1				1	1
タイ	2	1													1				1	1			2	1	3
フィリピン	3	2 (1)	1																2 (1)	1			2 (1)	1	3
パプアニューギニア	2	1	1																1	1			1	1	2
台湾	2														2					2				2	2
セルビア	1	1 (1)																	1 (1)				1 (1)		1
モザンビーク	5		3 (2)												2 (1)					5 (3)				5 (3)	5
ラオス	1		1																	1				1	1
ペルー	1		1																	1				1	1
アメリカ																								1	1
イタリア	1	1																	1				1		1
イスラエル																									
ガーナ	1											1									1				
ブルキナファソ	1							1													1				
計	83	24 (8)	21 (5)	1				1				1		1	34 (4)				25 (8)	55 (9)	3		26 (8)	154 (38)	180

国名	合計							合計
	正規			非正規				
	国費	私費	正規計	国費	私費	非正規計		
中国		69 (5)	69	1	3 (1)	4		73
マレーシア		29 (13)	29					29
ベトナム	1	22 (11)	23					23
韓国	1	6 (2)	7					7
モンゴル	1	5 (3)	6		2 (2)	2		8
ザンビア	1	1	2					2
インドネシア	8 (1)	5 (1)	13		3 (3)	3		16
ボツワナ	7 (5)	1	8					8
アフガニスタン		1	1	1		1		2
ケニア		1	1					1
ミャンマー		1	1	1 (1)		1		2
タイ	2	1	3					3
フィリピン	2 (1)	1	3		1	1		4
パプアニューギニア	1	1	2					2
台湾		2	2		1	1		3
セルビア	1 (1)		1					1
モザンビーク		5 (3)	5					5
ラオス		1	1					1
ペルー		1	1					1
アメリカ		1	1					1
イタリア	1		1					1
イスラエル				1 (1)	1	2		2
ガーナ				1		1		1
ブルキナファソ				1		1		1
計	26 (8)	154 (38)	180	6 (2)	11 (6)	17		197

※(　　)内は、女子学生数(内数)
※「国費」とは日本政府(文部科学省)奨学生を示し、大学推薦・大使館推薦を含む。
※「非正規」とは、日研生・教研生・交換留学生(特別聴講学生／特別研究学生)・科目等履修生・研究生を指す。
※「私費」には、政府派遣留学生(マレーシア)を含む。

外国人研究員等

〈外国人研究員数〉

令和元年度受入実績

部局名	国・地域	人数
理工学研究科	中　国	1
	インド	1

〈非常勤研究員数〉

令和元年度受入実績

部局名	国・地域	人数
理工学研究科	インド	1
地方創生センター	中　国	1
	インド	3
	モンゴル	1
	リベリア	1

〈外国人客員研究員数〉

令和元年度受入実績

部局名	国・地域	人数
国際資源学研究科	フィリピン	2
	インドネシア	1
医学系研究科	アメリカ	1
	中国	1
	タイ	1
理工学研究科	モンゴル	1

国際交流協定校

〈大学間協定（30カ国・地域62大学）〉

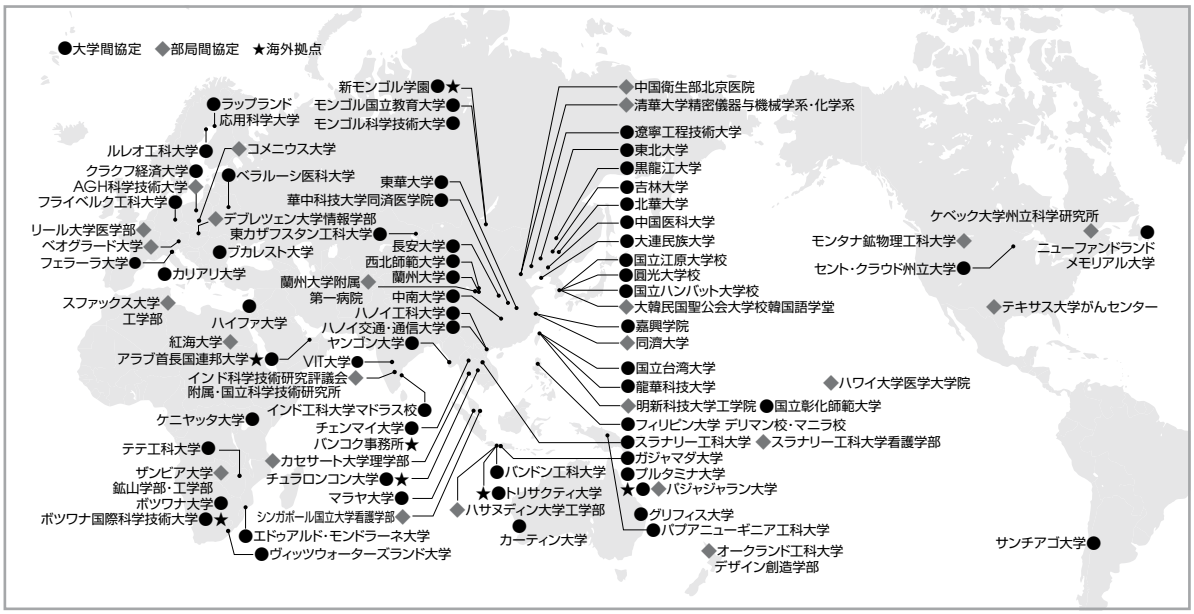
令和2年5月1日現在

国・地域名		大学名	締結年月日
アジア	インド	インド工科大学マドラス校	平成26年 3月 2日
		ＶＩＴ大学	平成27年 6月12日
	インドネシア	バンドン工科大学	平成24年 7月12日
		トリサクテイ大学	平成26年 6月10日
		ガジャマダ大学	平成27年 6月 8日
		ブルタミナ大学	平成30年 8月16日
		パジャジャラン大学	平成31年 3月26日
	韓　国	国立ハンバット大学校	平成13年 6月 8日
		圓光大学校	平成19年10月12日
		国立江原大学校	平成20年 3月24日
	タ　イ	チュラロンコン大学	平成24年11月28日
		スラナリー工科大学	平成27年 8月17日
		チェンマイ大学	平成27年12月10日
	台　湾	龍華科技大学	平成17年 7月15日
		国立台湾大学	平成31年 3月 7日
		国立彰化師範大学	令和 2年 1月22日
	中　国	黒龍江大学	昭和63年10月19日
		中国医科大学	平成 元年10月 6日
		中南大学	平成16年 8月24日
		遼寧工程技術大学	平成17年 4月20日
		大連民族大学	平成17年 6月27日
		蘭州大学	平成17年 8月 1日
		吉林大学	平成19年 2月 6日
		東北大学	平成19年 8月 9日
		東華大学	平成21年12月 3日
		華中科技大学同済医学院	平成22年 3月24日
		長安大学	平成22年11月18日
		北華大学	平成24年11月20日
		嘉興学院	平成26年11月12日
		西北師範大学	令和 元年12月12日
	フィリピン	フィリピン大学デリマン校	平成24年 9月24日
		フィリピン大学マニラ校	平成25年 2月 4日
	ベトナム	ハノイ工科大学	平成20年12月 2日
		ハノイ交通・通信大学	平成20年12月 3日
	マレーシア	マラヤ大学	平成25年11月20日
	ミャンマー	ヤンゴン大学	平成26年 9月19日
	モンゴル	モンゴル科学技術大学	平成21年10月22日
		モンゴル国立教育大学	平成22年 7月23日
		新モンゴル学園	平成28年 1月25日
アフリカ	ケニア	ケニヤッタ大学	平成22年 3月 2日
	ボツワナ	ボツワナ国際科学技術大学	平成21年10月23日
		ボツワナ大学	平成23年 3月31日
	モザンビーク	エドゥアルド・モンドラーネ大学	平成26年 1月12日
		テテ工科大学	平成29年 3月23日
	南アフリカ	ヴィッツウォーターズランド大学	平成26年 9月 1日
オセアニア	オーストラリア	グリフィス大学	平成 6年 6月29日
		カーティン大学	平成25年 8月 1日
	パプアニューギニア	パプアニューギニア工科大学	平成28年 8月 3日
北米	アメリカ	セント・クラウド州立大学	平成 8年 7月24日
	カナダ	ニューファンドランドメモリアル大学	平成25年 6月17日
中南米	チ　リ	サンチアゴ大学	平成25年11月21日
中東	イスラエル	ハイファ大学	平成22年 9月24日
	アラブ首長国連邦	アラブ首長国連邦大学	平成30年11月 6日
ヨーロッパ（NIS諸国を含む）	イタリア	カリアリ大学	平成21年12月 9日
		フェラーラ大学	平成26年 6月30日
	カザフスタン	東カザフスタン工科大学	平成23年 6月 8日
	スウェーデン	ルレオ工科大学	平成25年 5月 9日
	ドイツ	フライベルク工科大学	平成24年 7月 4日
	フィンランド	ラップランド応用科学大学	平成21年10月23日
	ベラルーシ	ベラルーシ医科大学	平成16年 7月26日
	ポーランド	クラクフ経済大学	平成30年 9月12日
	ルーマニア	ブカレスト大学	平成22年 9月28日

〈部局間協定（18カ国・地域29学部等）〉

令和2年5月1日現在

部局名	国・地域名		大学・学部等名	協定締結年月日
国際資源学研究科	アジア	インドネシア	ハサヌディン大学工学部	平成26年 4月23日
			パジャジャラン大学地質学部	平成30年10月 1日
		タイ	カセサート大学理学部	令和 元年 5月29日
	中東	スーダン	紅海大学地球科学部及び海洋漁業学部	平成28年12月10日
	ヨーロッパ	セルビア	ベオグラード大学工学部 ボール校	平成29年 3月 3日
		ポーランド	AGH科学大学	平成30年 9月19日
	北米	カナダ	ケベック大学州立科学研究所	令和 元年 9月18日
教育文化学部	アジア	韓国	大韓民国聖公会大学校韓国語学堂	平成31年 1月28日
医学系研究科	アジア	中国	中国衛生部北京医院	平成 7年11月14日
		シンガポール	シンガポール国立大学看護学部	平成28年 3月 7日
		タイ	スラナリー工科大学看護学部	令和 元年 5月10日
	ヨーロッパ	フランス	リール大学医学部	平成23年 4月13日
	北米	アメリカ	ハワイ大学ジョン・A・バーンズ医学大学院	平成28年 8月 4日
			テキサス大学M.D.アンダーソンがんセンター	平成29年 7月31日
医学部附属病院	アジア	中国	蘭州大学附属第一病院	平成26年 6月12日
理工学研究科	アジア	台湾	明新科技大学工学院	平成22年 4月12日
		中国	清華大学精密儀器与機械学系	平成19年 3月 1日
			清華大学化学系	平成20年 1月17日
			同濟大学材料科学与工程学院	平成22年 5月24日
			同濟大学上海市金属効能材料開発応用重点実験室	平成22年 5月24日
		インド	インド科学技術研究評議会附属・国立科学技術研究所	平成28年 8月 5日
	アフリカ	ザンビア	ザンビア大学鉱山学部	平成15年 1月20日
			ザンビア大学工学部	平成15年 3月12日
		チュニジア	スファックス大学工学部	平成15年12月18日
	オセアニア	ニュージーランド	オークランド工科大学デザイン創造学部	平成24年11月27日
	北米	アメリカ	モンタナ鉱物理工科大学	昭和57年 6月24日
	ヨーロッパ	ハンガリー	デブレツェン大学情報学部	令和 元年 5月30日
		スロバキア	コメニウス大学数学・物理・情報学部	令和 元年 8月13日
地方創生センター	アジア	中国	同濟大学上海市金属効能材料開発応用重点実験室	平成23年 9月 2日



公開講座

〈令和元年度実施〉

講座名	内　容	開催時期	参加者数	担当の学部
脳を若く保つには ~認知症になりにくい生活習慣~	高齢化の進行とともに認知症を発症する方も増加傾向にあるなかで、認知症予防に関する科学的なデータに基づき、「認知症になりにくい生活習慣」とはどのようなものか、その知見と応用について解説を行った。	令和元年 7月3日(水) ～31日(水)	65	医学部
秋田市のエネルギー政策から資源問題を考える:豊岩浄水場と国見山風力発電所を例に	大規模災害発生時の水道機能維持のために秋田市が全国に先駆けて導入した風力発電の浄水場のバックアップ電源化を事例に、地方自治体のエネルギー政策について解説。再生可能エネルギー利用に不可欠な資源についても解説し、資源確保の重要性と国際資源学部の取組みについて理解を深めるための講義と現地見学を行った。	令和元年 7月24日(水)	10	国際資源学部
看護師のはたらき ― 今どき~これから ―	少子高齢化社会を迎え、保健・医療・福祉をとりまく状況が急速に変化し、看護の内容も複雑化・多様化している。人々の健康をサポートし、その人らしい暮らしを送ることができるよう支える「看護師」という職業について、具体的なはたらきを紹介しながら解説を行った。	令和元年 8月5日(月) ～6日(火)	110	医学部
小さく生まれた子どもを支える	日本の出生数において約1割を占める低出生体重児は、学齢期以降も発育や運動・言語の発達に対する不安を抱く保護者もおり、地域全体が小さく生まれた子どもへの理解を深め、育児を支援することが望まれる。NICU での看護経験や小児理学療法の経験を持つ教員が発達支援の実際について紹介し、咀嚼機能や成長・発達の状況からみた支援のあり方について解説を行った。	令和元年 9月5日(木) ～26日(木)	19	医学部
秋田県における地震災害の歴史と防災	東日本大震災から8年が経過したが、その後も日本各地では数多くの自然災害が猛威を振るっており、地震災害に関しても毎年のように各地で発生している。秋田県で過去に発生してきた地震および津波災害や今後の地震、津波災害への備えについて解説を行った。	令和元年 10月2日(水) ～9日(水)	30	地方創生センター
がんを自分事として生きてゆく準備	高齢化が進む秋田県においては「がん」の罹患も増加している。かつては不治の病であったが、近年は医療の進歩とともにがんと共存をする時代となっている。がんの予防や早期発見、最新の治療やリハビリについて、人生の締めくくりを考える「終活」に関して、医学系研究科の教員が解説を行った。	令和元年 10月27日(土)	28	医学部
理工学部におけるメディカルエンジニアリング研究	秋田大学理工学部では高齢化が進む秋田において医理工分野の連携を強化し社会課題解決に取り組んでいる。人生100年時代に向け重要性が高まっているメディカルエンジニアリング分野に関して理系志望の高校生を主対象に人間情報工学・機械工学・生命科学の各分野から3名の教員が解説を行った。	令和元年 10月27日(土)	47	理工学部
健康寿命を延ばす生活習慣のヒント	秋田県の健康に関する現状を踏まえ、「健康寿命日本一」の実現に向けて個人レベルで努力可能な生活習慣を整えて健康寿命を延ばすためのヒントを、「食」「タバコ・アルコール」「運動」「排泄」の4テーマを取り上げ、看護学の視点から解説を行った。	令和元年 10月30日(水) ～11月20日(水)	39	医学部
世界の未来を開く国際資源学	秋田大学国際資源学部では文系・理系の垣根を越え国際的な資源問題に立ち向かうため多様な観点から研究を行っている。国際資源学に関係する様々な分野の最新研究成果について、高校生を主対象に解説を行った。	令和元年 11月24日(土)	30	国際資源学部
超スマート社会を支える機械工学	必要なものが必要なときに必要なだけ手に入り誰もが活き活きと快適に暮らすことのできる「超スマート社会」、日本はいまその構築を目指して動き始めている。工学の基盤技術に位置付けられる「機械工学」が超スマート社会の実現にどのように貢献できるのか、エレクトロモビリティ、メディカル・エンジニアリング、サスティナブル・メカニカル・エンジニアリングの視点から最新の研究成果について解説を行った。	令和元年 11月30日(土)	26	理工学部
サイコロジカル・カフェ	秋田大学大学院教育学研究科心理教育実践専攻を担当する専任教員全員による専門領域別のアラカルトメニューカフェ。最新の心理学の知見を交えながら、こころの不思議や健康について、カフェでおしゃべりする感覚で解説を行った。	令和元年 11月28日(水) ～12月6日(金)	21	教育文化学部

国内機関との連携・協力協定

〈大学間協定〉

令和2年5月1日現在

	協定締結日	締結先	協定の形態等	備考
自治体	平成18年 9月25日	秋田県	連携協定	
	平成20年 7月11日	秋田市	〃	
	平成20年10月24日	大館市	〃	
	平成20年11月 5日	小坂町	〃	
	平成20年11月17日	能代市	〃	
	平成21年 2月 7日	横手市	〃	
	平成21年10月 6日	北秋田市	〃	
	平成22年 5月26日	大仙市	〃	
	平成22年12月10日	八峰町	〃	
	平成23年 2月17日	男鹿市	〃	
	平成23年 5月13日	美郷町	〃	
	平成24年 2月17日	潟上市	〃	
	平成24年11月20日	湯沢市	〃	
	平成26年 9月26日	東成瀬村	〃	
	平成26年11月26日	仙北市	〃	
	平成30年10月25日	にかほ市	〃	
大　学	平成10年 3月23日	放送大学	単位互換に関する協定	
	平成14年 3月27日	秋田県内3大学	〃	
	平成14年 5月22日	北東北国立3大学	〃	
	平成15年10月 9日	秋田県内高等教育機関	〃	平成22年4月1日から 12高等教育機関へ拡大
	平成19年12月25日	群馬大学	グローバルCOEプログラム 「生態調節シグナルの統合的研究」	
	平成20年 7月22日	秋田県立大学	連携協力協定	
	平成21年 3月24日	秋田県立大学、国際教養大学	〃	平成26年4月1日から秋田公立美術大学を加えて秋田県内4大学へ拡大
	平成24年10月 3日	東北公益文科大学	〃	
	平成25年 1月31日	東京大学生産技術研究所	〃	
その他 企業等	平成15年12月24日	秋田県立脳血管研究センター	連携大学院協定	
	平成17年 3月17日	秋田大学生活協同組合	福利厚生事業に関する協定	
	平成18年 7月19日	(株)秋田銀行	連携協力協定	
	平成18年10月24日	(株)北都銀行	〃	
	平成18年12月 6日	商工組合中央金庫秋田支店	産学連携協力推進協定	
	平成19年 3月 6日	(株)日本政策金融公庫　秋田支店	〃	中小企業金融公庫から 平成20年10月1日に改称
	平成19年 7月24日	DOWAホールディングス(株)	包括的連携協定	
	平成20年 3月21日	(国研)宇宙航空研究開発機構	宇宙教育活動に関する協力協定	
	平成20年 9月11日	(株)わらび座	連携協力協定	
	平成23年 4月13日	(独)石油天然ガス･金属鉱物 資源機構	資源分野における包括協定	
	平成23年11月29日	美郷町商工会	産学連携に関する覚書	
	平成24年 1月20日	大仙市商工会	〃	
	平成25年11月19日	(独)国際協力機構(JICA)	資源分野の戦略的連携合意書	
	平成26年 9月24日	(株)北都銀行	新戦略連携協定	
	平成28年 7月14日	北東北国立3大学、 秋田銀行、岩手銀行、青森銀行	知的財産の活用に関する協定 「ネットビックスプラス」	
	平成29年 3月29日	東京工業大学、(一社)秋田県医師会	連携協定	
	平成29年 4月11日	(株)秋田魁新報社	包括的連携協力協定	
	令和 元年10月10日	秋田県立秋田北高等学校	高大連携協定	
	令和 2年 5月15日	NEXCO東日本東北支社	産学連携推進協定	

〈部局間協定〉

令和2年5月1日現在

部局名	協定締結日	締結先	協定の形態等
国際資源学部	平成28年 4月 1日	大学共同利用機関法人人間文化研究機構	学部間協定
国際資源学研究科	平成26年11月 1日	高知大学海洋コア総合研究センター	学部間協定
	平成31年 4月22日	一般財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター	協力協定
教育文化 学部	平成19年 3月23日	秋田県秋田北高等学校	連携教育協定
	平成21年 3月26日	秋田県教育委員会	秋田県総合教育センター研修員の授業科目の履修に関する協定
	平成24年 8月 1日	秋田県教育委員会、秋田市教育委員会	連携協定
	平成30年 2月 8日	秋田刑務所	共同研究及び連携に関する協定
理工学 研究科	平成17年12月13日	秋田工業高等専門学校	学部間協定
	平成18年10月 1日	国際資源大学校	〃
	平成18年11月21日	秋田県産業技術総合研究センター	〃
	平成25年12月 5日	秋田県、能代市	連携協定
	平成28年 1月 4日	信州大学工学部	〃

役員数

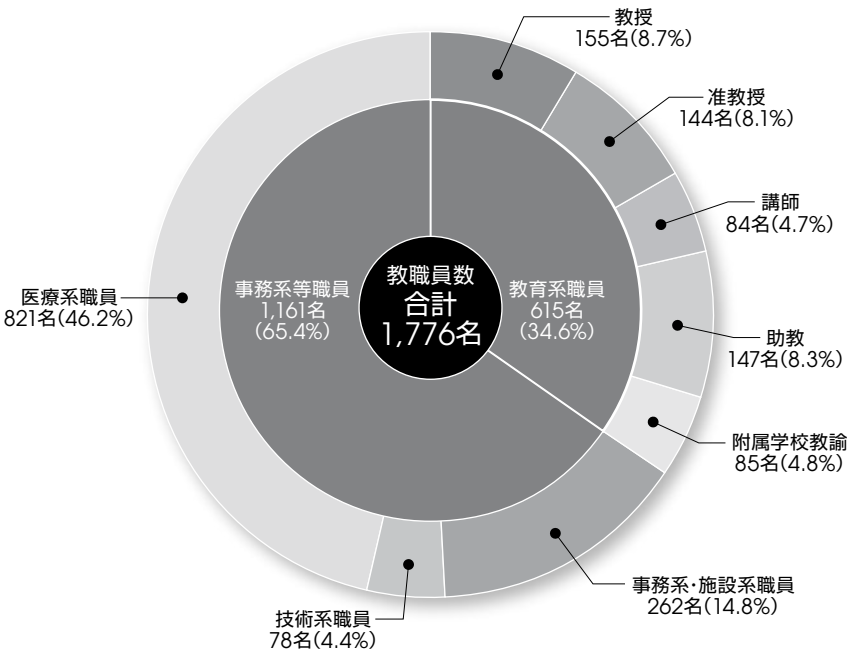
令和2年5月1日現在

区　分	学　長	理　事	監　事	計
学　長	1			1
理　事		6（2）		6（2）
監　事			2（1）	2（1）
計	1	6（2）	2（1）	9（3）

※（　）内の数は非常勤で内数

教職員数

令和2年5月1日現在



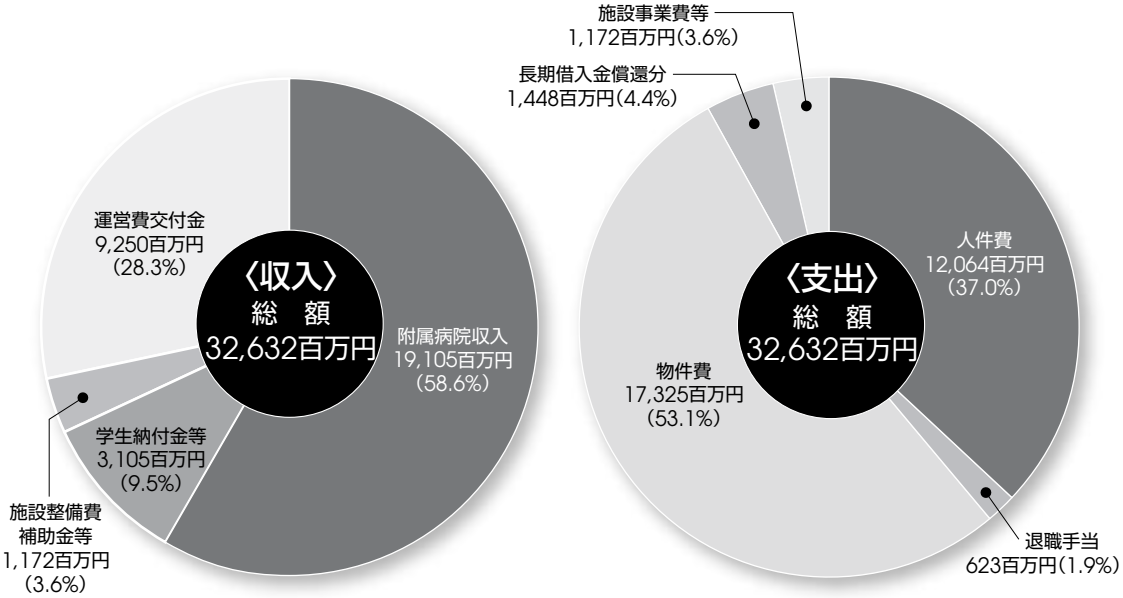
※教育系職員には特任教員を含め、寄附講座等教員を除く。

職別・男女別

令和2年5月1日現在

区分	教　授		准教授		講　師		助　教		附属学校教諭		事務系・施設系職員		技術系職員		医療系職員	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
男	140	90.3	123	85.4	66	78.6	103	70.1	41	48.2	160	61.1	58	74.4	173	21.1
女	15	9.7	21	14.6	18	21.4	44	29.9	44	51.8	102	38.9	20	25.6	648	78.9
合計	155		144		84		147		85		262		78		821	

令和2年度予算



※金額は令和2年度予定額であり、上記収入及び支出には、産学連携等研究費及び寄附金に係る経費は含まない。

外部資金受入状況

単位：千円

名　称	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度(令和元年度)	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
民間等との共同研究	73	73,014	78	84,678	83	97,547	84	90,666	82	87,869	107	111,282
受託研究	92	381,405	113	530,846	119	496,638	119	395,970	134	337,461	129	309,870
奨学寄附金	702	433,377	739	422,973	753	464,698	729	421,921	749	433,794	734	429,097
寄附講座・部門	4	162,000	4	156,000	4	156,000	3	151,000	3	148,000	2	85,000
合　計	871	1,049,796	934	1,194,496	959	1,214,883	935	1,059,557	968	1,007,124	972	935,249

※受託研究には治験薬試験・病理組織検査・受託試験を含まない。奨学寄附金には教育研究支援基金・みらい創造基金を含まない。

令和元年度科学研究費助成事業採択状況

単位：千円　令和2年3月31日現在

研究種目	採択件数	交付金額		
		直接経費	間接経費	合計
基盤研究(A)	1	4,900	1,470	6,370
基盤研究(B)	23	89,800	26,940	116,740
基盤研究(C)	174	166,700	50,010	216,710
挑戦的研究(萌芽)	5	8,200	2,460	10,660
若手研究(A)	1	600	180	780
若手研究(若手研究(B)を含む)	50	53,200	15,960	69,160
国際共同研究強化(B)	1	2,600	780	3,380
研究活動スタート支援	5	5,500	1,650	7,150
合　計	260	331,500	99,450	430,950
奨励研究	10	5,030	−	5,030

※金額は令和元年度交付内定額

土地・建物

令和2年5月1日現在

区分			建物延床面積(㎡)	土地(㎡)
手形地区	国際資源学部	学　部	7,718	200,293
		附属鉱業博物館	3,864	
	教育文化学部	学　部	16,584	
		附属教職高度化センター	560	
	理工学部	学　部	30,667	
		附属革新材料研究センター	2,975	
		附属クロスオーバー教育創成センター	684	
	中央図書館		4,604	
	情報統括センター		1,003	
	地方創生センター 1号館(百周年記念館含む)		2,151	
	地方創生センター 2号館		2,878	
	放射性同位元素センター		338	
	保健管理センター		561	
	大学会館(クレール)		3,322	
	本部管理棟他		9,800	
	体育関係施設		3,827	
	課外活動施設		1,396	
	小　計		92,932	
本道地区	医学部	学　部	34,180	168,219
		附属病院	63,944	
		附属病院シミュレーション教育センター	1,347	
	医学図書館		1,717	
	バイオサイエンス教育・研究サポートセンター		7,359	
	環境安全センター		366	
	本道会館		1,355	
	体育関係施設		1,079	
	課外活動施設		396	
	本道寮(女子)		1,317	
	職員宿舎(糠塚)・看護師宿舎		6,878	
	保育所		334	
	小　計		120,272	
保戸野地区	教育文化学部附属幼稚園		1,212	68,807
	教育文化学部附属小学校		7,680	
	教育文化学部附属中学校		7,628	
	教育文化学部附属特別支援学校		3,338	
	小　計		19,858	
その他	手形寮(女子)、西谷地寮(男子) 他		6,462	27,877
	職員宿舎(休下町、城下町 他)		6,074	
	上記以外		710	
	小　計		13,246	
合　計			246,308	465,196

各連絡先･所在地一覧

Telephone Number and Address

〈手形地区〉

名　称	電話番号	所在地
総務企画課総務担当　（総合案内）	018-889-2207	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
評価･IRセンター	018-889-2937	
附属図書館　中央図書館	018-889-2273	
保健管理センター	018-889-2286	
産学連携推進機構	018-889-2712	
情報統括センター	018-889-2499	
地方創生センター	018-889-3007	
地方創生センター 1号館	018-889-2680	
地方創生センター 2号館	018-889-3040	
国際資源学教育研究センター	018-889-2810	
放射性同位元素センター	018-889-3006	
高等教育グローバルセンター	018-889-3191	
高大接続センター　高大接続教育部門	018-889-3045	
高大接続センター　アドミッション部門･広報推進部門	018-889-2269	
教員免許状更新講習推進センター	018-889-3205	
学生支援総合センター	018-889-2265	
男女共同参画推進室	018-889-2260	
インフォメーションセンター	018-889-2931	
国際資源学研究科　総務担当	018-889-2214	
国際資源学研究科　附属鉱業博物館	018-889-2461	〒010-8502 秋田市手形字大沢28-2
教育文化学部　総務担当	018-889-2509	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
教育文化学部　附属教職高度化センター	018-889-2700	
理工学研究科　総務担当	018-889-2305	
理工学研究科　附属革新材料研究センター	018-889-2460	
理工学研究科　附属クロスオーバー教育創成センター	018-889-2806	
理工学研究科　附属地域防災力研究センター	018-889-2305	

手形地区

〈本道地区〉

名　称	電話番号	所在地
医学部　（総合案内）	018-833-1166	〒010-8543 秋田市本道1-1-1
医学部　附属病院　（総合案内）	018-834-1111	
医学部　附属病院 シミュレーション教育センター	018-884-6427	
バイオサイエンス教育･研究サポートセンター 分子医学部門	018-884-6191	
バイオサイエンス教育･研究サポートセンター 動物実験部門	018-884-6193	
バイオサイエンス教育･研究サポートセンター 放射性同位元素部門	018-884-6196	
環境安全センター	018-884-6192	
高齢者医療先端研究センター	018-884-6085	
附属図書館　医学図書館	018-884-6052	

本道地区

〈保戸野地区〉

名　称	電話番号	所在地
教育文化学部　附属幼稚園	018-862-2343	〒010-0904 秋田市保戸野原の町14-32
教育文化学部　附属小学校	018-862-2593	〒010-0904 秋田市保戸野原の町13-1
教育文化学部　附属中学校	018-862-3350	〒010-0904 秋田市保戸野原の町7-75
教育文化学部　附属特別支援学校	018-862-8583	

保戸野地区

〈その他施設等〉

名　称	電話番号	所在地
西谷地寮(男子)	－	〒010-0851 秋田市手形西谷地5-1
手形寮(女子)	－	〒010-0862 秋田市手形田中5-50
本道寮(女子)	－	〒010-0825 秋田市柳田字糠塚100-3
国際交流会館	－	〒010-0862 秋田市手形田中5-50
留学生会館	－	〒010-0041 秋田市広面字高田4
横手分校	0182-38-8304	〒013-0036 横手市駅前町1-21
北秋田分校	0186-62-1111	〒018-3392 北秋田市花園町19-1
男鹿なまはげ分校	0185-24-9126	〒010-0595 男鹿市船川港船川字泉台66-1
東京サテライト	03-5440-9104	〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6 東京工業大学キャンパス･イノベーションセンター 606号室
放送大学秋田学習センター	018-831-1997	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

手形地区施設配置図

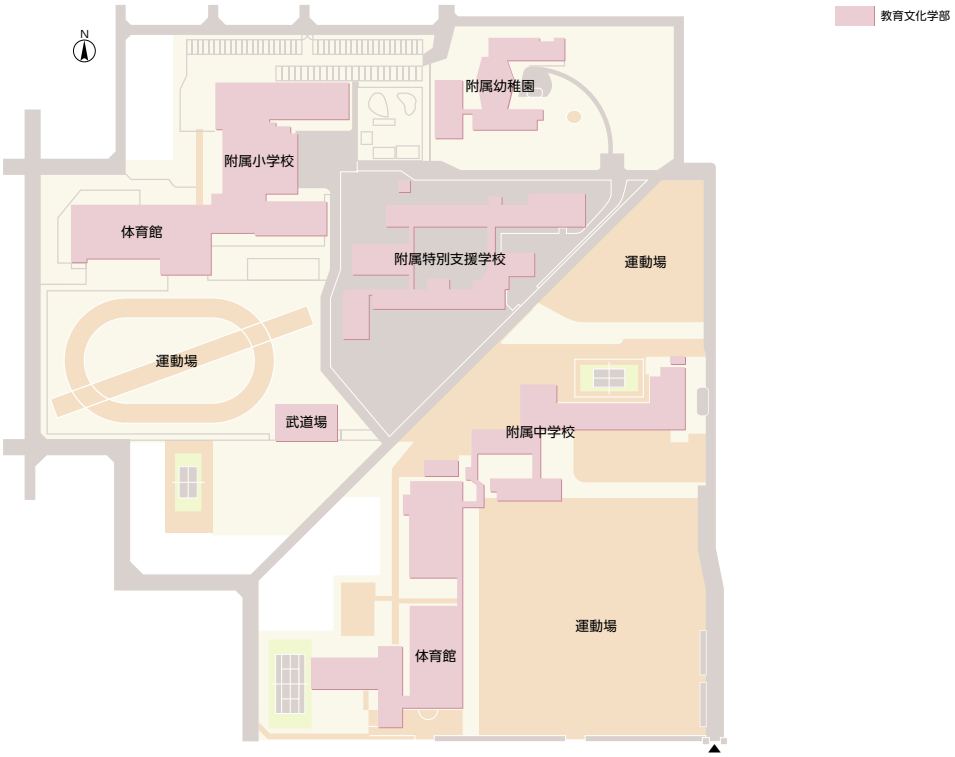
Tegata Campus Map

本道地区施設配置図

Hondo Campus Map

保戸野地区施設配置図

Hodono Campus Map



アクセス

Access

〈秋田まで〉

令和2年5月現在

東京から	羽田空港―秋田空港(約1時間5分)
	秋田新幹線「こまち」　東京駅―秋田駅(約4時間)
名古屋から	中部国際空港―秋田空港(約1時間20分)
大阪から	大阪国際(伊丹)空港―秋田空港(約1時間30分)
札幌から	新千歳空港―秋田空港(約1時間)

秋田空港～秋田駅間リムジンバス	秋田空港―秋田駅西口(約40分)
	秋田空港―秋田駅東口(約30分) ※1日1便のみ

〈秋田駅から秋田大学まで〉

令和2年5月現在

行き先	バス路線(秋田中央交通)	秋田駅前バスのりば	下車バス停(所要時間)
手形地区	手形山大学病院線	西口⑫番	秋田大学前(約5～30分)
	秋田温泉線 ※平日のみ	西口⑫番	
	楢山大回り線 ※平日のみ	西口⑨番	
	●秋田駅東口より徒歩約15分		
本道地区	太　平　線	西口⑪番	大学病院前(約10～22分)
	赤　沼　線		
	松崎団地線		
	手形山大学病院線	西口⑫番	
	赤　沼　線	東口②番	
保戸野地区	泉八橋環状線 ※平日のみ(八橋回り)	西口②番	原の町(約8~25分)
	神田旭野線	西口⑧番	
	添　川　線		
	泉八橋環状線 ※平日のみ(泉回り)		
	楢山大回り線 ※平日のみ	西口⑨番	

秋田大学のロゴマークには次の3つの意味が表現として込められています。

1　マーク上部には、秋田大学の4つの学部を4株の稲のイメージで表現しています。

2　マーク下部のラインには、秋田大学が未来のステージへ飛躍するイメージ、本を開いたイメージ、そして外に開かれたイメージを重ね合わせたものです。さらに、マーク上部が表現するイメージをしっかりと受け止める土台となっています。

3　以上の2つの組み合わせにより、秋田大学が世界の課題を解決するとともに地域の発展に寄与すること、同時に秋田大学の上昇志向をイメージしています。

秋田大学 概要 令和2年度

［編集発行］
秋田大学 広報課
秋田市手形学園町1番1号 〒010-8502
TEL018-889-3019　FAX018-889-3242
E-mail kouhou@jimu.akita-u.ac.jp
https://www.akita-u.ac.jp